

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）国際文化研究科 国際地域文化専攻（D）

1. <学位の英語名称が不明確>

学位の名称について、「博士（国際地域文化）」としているが、英語名称については「Doctor of philosophy」としており、「国際地域文化」については英語名称にその要素が表れず日本語表記と英語表記が必ずしも合致していない。例えば、「Doctor of philosophy in ○○」とすることも考えられるが、英語表記に「国際地域文化」の要素を含めないとする考え方について説明するか、適切に修正すること。（改善意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. <修了要件が不十分>

博士論文提出の要件が不明確なため、博士論文の質保証の観点から、要件をより詳細に説明するか、審査内規等に詳細な要件を定めること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3. <修士課程と博士後期課程の連続性が不明確>

修士課程の言語文化教育研究領域及び社会制度政策教育研究領域が博士後期課程と関連するとしているが、社会制度政策教育研究領域については博士後期課程との関係が明示されておらず、教育課程からも関連が認められない。教育課程からは言語文化教育研究領域が博士後期課程の基礎と考えられるが、博士後期課程のアドミッション・ポリシーでは、言語文化教育研究領域を基礎とすることが明確であるとは言えない。言語文化教育研究領域について、博士後期課程の基礎としての位置付けが明確となるよう、修士課程と博士後期課程の接続の説明及びアドミッション・ポリシーの記載を修正すること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

4. <修士課程との連続性が不明確>

特任教員以外の教員全員が修士課程の講義科目及び研究指導を担当しており、修士課程から博士後期課程への連続性ある研究指導が可能との説明があるが、これらの教員はいずれも博士後期課程の科目を1科目しか担当しておらず、多くの科目を担当することとなる他大学から採用予定の3名の教員が修士課程の指導を行うかどうかは説明がない。修士課程からの連続性ある教育・研究指導が十分になされるかが明確となるよう説明を追加するか、適切に改めること。（改善意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

5. <学生確保の見込みが不明確>

入学定員を2名と設定しているが、修士課程在籍者に対するアンケートでは、進学に前向きな回答をしたのは「入学を検討する」と回答した1名のみであり、また、近隣に同分野の大学院が既に設置されていることを踏まえると、定員を充足できる見込みが十分か不明確である。継続して安定した入学者を確保できることについて、客観的なデータを追加する等により、改めて説明すること。（改善意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

6. <入学者受入れに際しての配慮が不明確>

修士課程から博士後期課程において連続した教育を行うに当たり、社会人や留学生など同大学に設置する修士課程以外から入学する者については、入学後の学修に一定の配慮を行うか、あるいは、博士後期課程の前提となる知識をアドミッション・ポリシーに明示するとともに、当該知識を十分に備えていることを入学試験で確認することが必要であると考えられるが、これらの取組がなされる計画となっているか明確でない。社会人・留学生等について、博士後期課程における円滑な学修が図られるための方策を具体的に説明すること。(改善意見)・・・・・・・・・・26

7. <教員の年齢構成が不適切>

教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。(是正意見)・・・・・・・・・・31

8. <表記の単純な誤記>

申請書に誤記等が散見されるため、適切に改めること。(是正意見)・・・・・・・・・・38

(改善意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

1. <学位の英語名称が不明確>

学位の名称について、「博士 (国際地域文化)」としているが、英語名称については「Doctor of Philosophy」としており、「国際地域文化」については英語名称にその要素が表れず日本語表記と英語表記が必ずしも合致していない。例えば、「Doctor of Philosophy in ○○」とすることも考えられるが、英語表記に「国際地域文化」の要素を含めないとする考え方について説明するか、適切に修正すること。

(対応)

審査意見 1 を踏まえて、本博士後期課程の学位の英語名称を次のとおり修正する。

学位の名称

和名：博士 (国際地域文化)

英名：Doctor of Philosophy in International Culture and Area Studies

本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、豊かな学識を有する人材を養成することを目的としている。したがって、「国際」「地域」「文化」を基本概念として教育課程を編成し、研究の文化的、社会的側面に関する複合的な理解と学識を備えた人材を育成するため、授与する学位の名称を「博士 (国際地域文化)」とする。

「Doctor of Philosophy」は、諸分野における博士の学位を示すものとして、諸外国において一般的に使用されており学術的にも広く認知されている分野である。

本博士後期課程では、専攻名「国際地域文化」の英名を「International Culture and Area Studies」と示すこととした。専攻名は、本学が立脚する沖縄 (琉球)・アジアの歴史や文化の研究と、(ハワイを含む) 南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化研究を行うことを教育研究の主たる目的としていることに基づくものである。

このように本博士後期課程で授与する学位の英名は、学位のレベル、分野を合わせて、「Doctor of Philosophy in International Culture and Area Studies」と表記することとする。

なお、以上については、日本学術会議による報告「学士の学位に付記する専攻分野の名称の在り方について」(平成 26 年(2014 年)9 月 17 日)で示されている学位の英文表記に関する基本的考え方に合致するものである。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (5 ページ)

新	旧
イ 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	イ 研究科、専攻等の名称及び学位の名称
2. 学位の名称	2. 学位の名称
和名：博士 (国際地域文化)	和名：博士 (国際地域文化)
英名：Doctor of Philosophy in	英名：Ph. D.

新	旧
<p data-bbox="240 286 655 360"><u>International Culture and Area Studies</u></p> <p data-bbox="177 421 464 450">3. 当該名称とする理由</p> <p data-bbox="204 465 754 860">研究科名については、既存の修士課程の研究科名である「国際文化研究科」を用い、博士後期課程の専攻名を「国際地域文化専攻」とする。専攻名については、これまで説明したように、本学が立脚する沖縄（琉球）・アジアの歴史や文化を研究すると同時に、(ハワイを含む) 南北アメリカに特化した<u>環太平洋の地域文化</u>研究を行うことを教育研究の主たる目的としていることに基づく。</p> <p data-bbox="204 875 754 1314">本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、豊かな学識を有する人材を養成することを目的としている。したがって、「国際」「地域」「文化」を基本概念として教育課程を編成し、研究の文化的、社会的側面に関する複合的な理解と学識を備えた人材を育成するため、授与する学位の名称を「博士（国際地域文化）」とする。</p> <p data-bbox="204 1330 754 1720">また、学位の英文名称は、「<u>Doctor of Philosophy in International Culture and Area Studies</u>」と表記する。「<u>Doctor of Philosophy</u>」は、諸分野における博士の学位を示すものとして、諸外国において一般的に使用されており学術的にも広く認知されている分野である。この学位のレベル、分野に専攻名の英名「<u>International Culture and Area Studies</u>」を合わせて示すこととする。</p>	<p data-bbox="778 421 1066 450">3. 当該名称とする理由</p> <p data-bbox="805 465 1356 860">研究科名については、既存の修士課程の研究科名である「国際文化研究科」を用い、博士後期課程の専攻名を「国際地域文化専攻」とする。専攻名については、これまで説明したように、本学が立脚する沖縄（琉球）・アジアの歴史や文化を研究すると同時に、(ハワイを含む) 南北アメリカに特化した<u>環太平洋地域の</u>研究を行うことを教育研究の主たる目的としていることに基づく。</p> <p data-bbox="805 875 1356 1314">本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、豊かな学識を有する人材を養成することを目的としている。したがって、「国際」「地域」「文化」を基本概念として教育課程を編成し、研究の文化的、社会的側面に関する複合的な理解と学識を備えた人材を育成するため、授与する学位の名称を「博士（国際地域文化）」とする。</p> <p data-bbox="805 1330 1356 1404">また、学位の英文名称は、<u>諸外国において一般的に使用されているものである。</u></p>

(是正意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

2. <修了要件が不十分>

博士論文提出の要件が不明確なため、博士論文の質保証の観点から、要件をより詳細に説明するか、審査内規等に詳細な要件を定めること。

(対応)

審査意見2を踏まえて、博士論文提出の要件が不明確だったため、博士論文の質保証の観点から、要件をより詳細に説明する。

1. 博士論文審査

事前審査会で論文提出資格の承認を得た者が本審査を受けることができる。

1) 事前審査

(1) 博士論文事前審査の要件

- ① 共通科目(必修)の2科目4単位、専門科目(選択科目)から2科目4単位以上、研究指導科目(必修)の6科目12単位、合計10科目20単位以上を取得済(または見込み)であること。
- ② 博士後期課程在籍中に、博士後期課程中間発表会を開催していること。
- ③ 博士後期課程在籍中に、提出する博士学位論文に関する論文が1編以上あること。
※ 対象となる論文は、日本語又は外国語で作成され、査読付き学術誌に掲載、または受理されたものとする。なお、博士後期課程入学以前に発表されたものも可とする。

(2) 事前審査に係る提出書類

事前審査は、指導教員により(1)の確認及び学位請求論文概要により、論文提出資格を有すると判断したうえで行わなければならない。

- ① 審査時期
 - ・7月上旬
- ② 提出書類
 - ・事前審査申請書 1部
 - ・学位請求論文概要(審査員の部数)
 - ・履歴書(審査員の部数)
 - ・研究業績書(審査員の部数)
- ③ 提出先
 - ・名桜大学大学院国際文化研究科長(博士後期課程)
- ④ 事前審査会の設置
 - ・国際文化研究科長(博士後期課程)は、事前審査申請書に基づき事前審査会を設置する。

2) 本審査

(1) 本審査に係る提出書類

申請者は、下記要領で必要書類を提出すること。

- ① 申請時期
 - ・10月4週目

② 提出書類

- ・学位請求論文表紙（審査委員数に1加えた部数）
- ・学位請求論文本文（審査委員数に1加えた部数）
- ・学位請求論文の要旨（電子媒体及び紙媒体1部）

③ 提出先

- ・名桜大学大学院国際文化研究科長（博士後期課程）

(2) 博士学位論文審査及び最終試験（12月審査）

- ・学位論文に関する口頭発表及び審査員との質疑応答

2. 学位論文審査体制及び学位論文の公表

本学では、博士の学位を授与された者の学位論文の要旨及び論文審査の結果の要旨を3か月以内に本学ホームページ（沖縄地域学リポジトリ含む）にて公開することとしている。

また、博士論文の全文の公表については、学位授与日から1年以内にインターネットで公開する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類（16～18ページ）

新	旧
<p>4. 博士論文審査</p> <p><u>事前審査会で論文提出資格の承認を得た者が本審査を受けることができる。</u></p> <p>1) 事前審査</p> <p>(1) 博士論文事前審査の要件</p> <p>① <u>共通科目（必修）の2科目4単位、専門科目（選択科目）から2科目4単位以上、研究指導科目（必修）の6科目12単位、合計10科目20単位以上を取得済（または見込み）であること。</u></p> <p>② <u>博士後期課程在籍中に、博士後期課程中間発表会を開催していること。</u></p> <p>③ <u>博士後期課程在籍中に、提出する博士学位論文に関する論文が1編以上あること。</u></p> <p>※ <u>対象となる論文は、日本語又は外国語で作成され、査読付き学術誌に掲載、または受理されたものとする。なお、博士後期課程入学以前に発表されたものも可とする。</u></p> <p>(2) <u>事前審査に係る提出書類</u></p> <p><u>事前審査は、指導教員により（1）の確認及び学位請求論文概要により、論文提出資格</u></p>	<p>(追加)</p>

新	旧
<p><u>を有すると判断したうえで行わなければならない。</u></p> <p>① <u>審査時期</u></p> <p>・<u>7月上旬</u></p> <p>② <u>提出書類</u></p> <p>・<u>事前審査申請書 1部</u></p> <p>・<u>学位請求論文概要（審査員の部数）</u></p> <p>・<u>履歴書（審査員の部数）</u></p> <p>・<u>研究業績書（審査員の部数）</u></p> <p>③ <u>提出先</u></p> <p>・<u>名桜大学大学院国際文化研究科長（博士後期課程）</u></p> <p>④ <u>事前審査会の設置</u></p> <p>・<u>国際文化研究科長（博士後期課程）は、事前審査申請書に基づき事前審査会を設置する。</u></p> <p>2) <u>本審査</u></p> <p>(1) <u>本審査に係る提出書類</u></p> <p><u>申請者は、下記要領で必要書類を提出すること。</u></p> <p>① <u>申請時期</u></p> <p>・<u>10月4週目</u></p> <p>② <u>提出書類</u></p> <p>・<u>学位請求論文表紙（審査委員数に1加えた部数）</u></p> <p>・<u>学位請求論文本文（審査委員数に1加えた部数）</u></p> <p>・<u>学位請求論文の要旨（電子媒体及び紙媒体1部）</u></p> <p>③ <u>提出先</u></p> <p>・<u>名桜大学大学院国際文化研究科長（博士後期課程）</u></p> <p>(2) <u>博士学位論文審査及び最終試験（12月審査）</u></p> <p>・<u>学位論文に関する口頭発表及び審査員との質疑応答</u></p>	

新	旧
<p>5. 学位論文審査体制及び学位論文の公表</p> <p>学位論文の審査については、「名桜大学学位規則」(資料7)に則って行う。</p> <p>学生から学位論文が提出された後、研究科長は博士論文審査会を設置する。博士論文審査会は、主査1名及び副査2名の体制で行うこととし、主査は当該学生の研究指導教員以外の研究指導教員とし、副査は当該博士後期課程の研究指導教員1名と学外の審査員1名から構成される。博士学位論文審査及び最終試験は公開で12月に行われ、学生が学位論文に関する口頭発表を行い、審査員との質疑応答が行われる。その後、審査員3名のみによる非公開協議が行われる。</p> <p>博士論文審査会において、論文の形式要件、先行研究の検討・整理、研究課題の設定の明確さ、調査等の妥当性、結論等を精査したうえで、論文の内容が研究者として自立できるための水準に達しているか否かを審査する。</p> <p>学位論文の申請方法、申請書類、論文の審査、試験、審査期間、研究科委員会の審議及び審議結果の報告等については、「名桜大学学位規則」(資料7)で定めている。</p> <p>合格した学位論文の公表については、学位規則(昭和二十八年四月一日 文部省令第九号)の規定及び名桜大学学位規則により定められているとおり、博士の学位授与後、博士論文の要旨及び論文審査の結果の要旨を学位授与日から3か月以内にインターネットの利用により、本学ホームページ(沖縄地域学リポジトリ含む)にて行う。また、博士論文の全文の公表については、学位授与日から1年以内にインターネットで公開する。ただし、やむを得ない事由がある場合には、大学の承認を受けて、全文の公表に代えてその内容を要約したものを公表することができるものとする。</p>	<p>4. 学位論文審査体制及び学位論文の公表</p> <p>学位論文の審査については、「名桜大学学位規則」(資料6)に則って行う。</p> <p>学生から学位論文が提出された後、研究科長は博士論文審査会を設置する。博士論文審査会は、主査1名及び副査2名の体制で行うこととし、主査は当該学生の研究指導教員以外の研究指導教員とし、副査は当該博士後期課程の研究指導教員1名と学外の審査員1名から構成される。博士学位論文審査及び最終試験は公開で12月に行われ、学生が学位論文に関する口頭発表を行い、審査員との質疑応答が行われる。その後、審査員3名のみによる非公開協議が行われる。</p> <p>博士論文審査会において、論文の形式要件、先行研究の検討・整理、研究課題の設定の明確さ、調査等の妥当性、結論等を精査したうえで、論文の内容が研究者として自立できるための水準に達しているか否かを審査する。</p> <p>学位論文の申請方法、申請書類、論文の審査、試験、審査期間、研究科委員会の審議及び審議結果の報告等については、「名桜大学学位規則」(資料6)で定めている。</p> <p>合格した学位論文の公表については、学位規則(昭和二十八年四月一日 文部省令第九号)の規定及び名桜大学学位規則により定められているとおり、博士の学位授与後、博士論文の <u>内容の要旨</u> 及び論文審査の結果の要旨を学位授与日から3か月以内にインターネットの利用により、本学ホームページにて行う。また、博士論文の全文の公表については、学位授与日から1年以内にインターネットで公開する。ただし、やむを得ない事由がある場合には、大学の承認を受けて、全文の公表に代えてその内容を要約したものを公表することができるものとする。</p>

新	旧
<p>6. 研究倫理体制 (略)</p> <p>7. 修了要件 (略)</p> <p>8. 成績評価及び学位論文に関わる評価 (略)</p>	<p>5. 研究倫理体制 (略)</p> <p>6. 修了要件 (略)</p> <p>7. 成績評価及び学位論文に関わる評価</p>

(是正意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

3. <修士課程と博士後期課程の連続性が不明確>

修士課程の言語文化教育研究領域及び社会制度政策教育研究領域が博士後期課程と関連するとしているが、社会制度政策教育研究領域については博士後期課程との関係が明示されておらず、教育課程からも関連が認められない。教育課程からは言語文化教育研究領域が博士後期課程の基礎と考えられるが、博士後期課程のアドミッション・ポリシーでは、言語文化教育研究領域を基礎とすることが明確であるとは言えない。言語文化教育研究領域について、博士後期課程の基礎としての位置付けが明確となるよう、修士課程と博士後期課程の接続の説明及びアドミッション・ポリシーの記載を修正すること。

(対応)

審査意見3を踏まえ、本博士後期課程は、修士課程の言語文化教育研究領域を基礎とし接続することについて明確にするとともに、当初申請の添付資料10「修士課程と博士後期課程の関係図」で社会制度政策教育研究領域と博士後期課程の接続関係を示していた破線の矢印(●→)を削除する。

また、アドミッション・ポリシーの記載を修正する。

具体的には、次のとおりである。

1. 修士課程と博士後期課程の接続について

本博士後期課程は、国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)において構成する5つの教育研究領域(言語文化、社会制度政策、経営情報、観光環境、健康科学)のうち、「言語文化教育研究領域」を基礎に発展させた国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)として設置する計画である。

本博士後期課程では、教育研究上の目的について、「文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行う」とし、ディプロマ・ポリシーでは、「『国際地域文化』という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる能力を有すること」としている。

また、養成する人材に関しては、「普遍的な研究課題に取り組み、その成果を生かし研究者として活躍する能力を有する者及び専門分野に加えて環太平洋地域に関する幅広い学識と国際感覚を有する者の養成を目指す」と掲げている。

このような能力を育成するために、教育課程の中で専門科目を編成し、複数の専門分野に関連する研究課題にも応用できる研究能力を醸成することを目的に、沖縄(琉球)・アジア研究及び(ハワイを含む)南北アメリカ研究に関する専門科目及び関連科目を配置している。

関連科目として位置付けている科目は、「東アジア地域文化特論」「東南アジア地域文化特論」「言語学特論」「英語教育特論」「現代沖縄教育特論」「アジア太平洋国際関係特論」の6科目である。これらは、沖縄(琉球)・アジアの歴史的・文化的背景や現代沖縄における文化生成のありよう、また、(ハワイを含む)南北アメリカの地域文化を探求し理解するために重要な関連分野として位置付けている。

一方、国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)は、5つの教育研究領域で構成してい

るが、中でも本博士後期課程の基礎とする「言語文化教育研究領域」では、琉球列島や東南アジア及び中南米諸国などの環太平洋地域及び英米における特色ある言語文化と地域文化の研究を行い、言語文化研究の専門家を養成している。

国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを次のように定めている。

特にカリキュラム・ポリシーでは、教育研究領域科目の配置を領域ごとに定め、言語文化教育研究領域において、沖縄・日本を含む環太平洋地域に特化した科目を配置している。これらの教育研究領域科目を履修し、環太平洋地域における言語文化や地域文化の研究に発展させていくこととしている。

国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の三つのポリシー

国際文化研究科は、グローバル化、情報化が進展する国内外の諸課題に対応できる高度専門職業人および研究能力を有する人材を育成します。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

国際文化研究科は、以下の能力を身につけた大学院生に修士（国際文化）の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続ける生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する力

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力を育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての学生を対象として、修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。
4. 国際的かつ学際的な広い視野と洞察力を持って問題を解決するために、総合的・科学的に取り組むことができる高度な能力を養うことを目的として、「共通科目」および以下の各領域の「教育研究領域科目」を配置する。

【言語文化教育研究領域】

沖縄と日本に加え、環太平洋地域（アジア、中南米、北米地域）の言語と文化を探求する人材を養成するための科目等を配置する。

【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化、情報化が進展する国内・国際社会において、広い視野と洞察力を持って問題を解決する人材を養成するための科目等を配置する。

【経営情報教育研究領域】

グローバルな立場から地域社会や国際社会の問題を俯瞰的・客観的に分析し、地域の経済、産業、情報化を担う人材を養成するための科目等を配置する。

【観光環境教育研究領域】

観光に関する学術的な研究を通じて、沖縄をはじめとする諸地域が直面する問題に総合的かつ科学的に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

【健康科学教育研究領域】

国際的かつ学際的な視野と人間の健康に関する総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な研究に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

このように、修士課程の言語文化教育研究領域と本博士後期課程は、環太平洋の地域文化研究という教育研究の連続性をもって接続している。また、教員構成や科目においても、両課程は密接な関係をもって、継続性のある研究指導も可能となる。

なお、修士課程の社会制度政策教育研究領域科目に配置している「東アジア地域特論」「国際政治特論Ⅰ」「国際政治特論Ⅱ」と、本博士後期課程の専門科目に関連科目として配置した「東アジア地域文化特論」「アジア太平洋国際関係特論」は科目としての関連性は見出せる。しかし、博士後期課程での当該2科目は、前述したように、沖縄（琉球）・アジアの歴史的・文化的背景や現代沖縄における文化生成のありよう、また、（ハワイを含む）南北アメリカの地域文化を探求し理解するために重要な関連分野として位置付けているものであり、両課程の連続性を示すものではない。

以上で述べてきたとおり、本博士後期課程は、修士課程の「言語文化教育研究領域」を基礎に発展、接続しているものであることを明確にするために、「設置の趣旨等を記載した書類」中、「キ 基礎となる修士課程との関係」を下記の新旧対照表のとおり修正し、また、同書類の添付資料11「修士課程と博士後期課程の関係図」上の破線の矢印（●→▶）を削除することで修正する。

（新旧対照表） 設置の趣旨等を記載した書類（20～22 ページ）

新	旧
<p>キ 基礎となる修士課程との関係</p> <p>本博士後期課程は、国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）において構成する5つの教育研究領域（言語文化、社会制度政策、経営情報、観光環境、健康科学）のうち、「言語文化教育研究領域」を基礎に発展させた国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）として設置する計画である。</p> <p><u>本博士後期課程では、教育研究上の目的について、「文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行う」とし、ディプロマ・ポリシーでは、『国際地域文化』という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、沖縄（琉球）・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化</u></p>	<p>キ 基礎となる修士課程との関係</p> <p>本博士後期課程は、国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）において構成する5つの教育研究領域（言語文化、社会制度政策、経営情報、観光環境、健康科学）のうち、「言語文化教育研究領域」を基礎に発展させた国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）として設置する計画である。</p> <p><u>修士課程の「言語文化教育研究領域」においては、「沖縄地域文化研究特論」や「琉球歴史特論」「琉球文学特論」「中南米文化特論」「米文学特論」など、地域や文化を研究する基盤となる科目により教育課程を編成している。また、「社会制度政策教育研究領域」には、「国際政治特論」や「東アジア地域特論」など、国際的な視座から地域や文化を深く理解する</u></p>

新	旧
<p><u>の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる能力を有すること」としている。</u></p> <p><u>また、養成する人材に関しては、「普遍的な研究課題に取り組み、その成果を生かし研究者として活躍する能力を有する者及び専門分野に加えて環太平洋地域に関する幅広い学識と国際感覚を有する者の養成を目指す」と掲げている。</u></p> <p><u>このような能力を育成するために、教育課程の中で専門科目を編成し、複数の専門分野に関連する研究課題にも応用できる研究能力を醸成することを目的に、沖縄(琉球)・アジア研究及び(ハワイを含む)南北アメリカ研究に関する専門科目及び関連科目を配置している。</u></p> <p><u>関連科目として位置付けている科目は、「東アジア地域文化特論」「東南アジア地域文化特論」「言語学特論」「英語教育特論」「現代沖縄教育特論」「アジア太平洋国際関係特論」の6科目である。これらは、沖縄(琉球)・アジアの歴史的・文化的背景や現代沖縄における文化生成のありよう、また、(ハワイを含む)南北アメリカの地域文化を探求し理解するために重要な関連分野として位置付けている。</u></p> <p><u>一方、国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)は、5つの教育研究領域で構成しているが、中でも本博士後期課程の基礎とする言語文化教育研究領域では、琉球列島や東南アジア及び中南米諸国などの環太平洋地域及び英米における特色ある言語文化と地域文化の研究を行い、言語文化研究の専門家を養成している。</u></p> <p><u>国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを次のように定めている。</u></p> <p><u>特にカリキュラム・ポリシーでは、教育研究領域科目の配置を領域ごとに定め、言語文化教育研究領域において、沖縄・日本を含む環</u></p>	<p><u>科目を配置している。</u></p> <p><u>このように修士課程と博士後期課程は、地域文化研究を柱としてつなげており、博士後期課程で、より広い視点と深い学識を有する研究者の養成を目指す。</u></p>

新	旧
<p>太平洋地域に特化した科目を配置している。 これらの教育研究領域科目を履修し、環太平洋地域における言語文化や地域文化の研究に発展させていくこととしている。</p> <p><u>国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の三つのポリシー</u></p> <p>国際文化研究科は、グローバル化、情報化が進展する国内外の諸課題に対応できる高度専門職業人および研究能力を有する人材を育成します。</p> <p><u>I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）</u></p> <p>国際文化研究科は、以下の能力を身につけた大学院生に修士（国際文化）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力</u> 2. <u>地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続ける生涯学習力</u> 3. <u>自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力</u> 4. <u>多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する力</u> <p><u>II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）</u></p> <p>ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力を育成できるカリキュラムを編成する。</u> 2. <u>科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。</u> 3. <u>全ての学生を対象として、修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査</u> 	

新	旧
<p><u>に合格することを修了の条件とする。</u></p> <p>4. <u>国際的かつ学際的な広い視野と洞察力を持って問題を解決するために、総合的・科学的に取り組むことができる高度な能力を養うことを目的として、「共通科目」および以下の各領域の「教育研究領域科目」を配置する。</u></p> <p>【言語文化教育研究領域】 <u>沖縄と日本に加え、環太平洋地域（アジア、中南米、北米地域）の言語と文化を探究する人材を養成するための科目等を配置する。</u></p> <p>【社会制度政策教育研究領域】 <u>グローバル化、情報化が進展する国内・国際社会において、広い視野と洞察力を持って問題を解決する人材を養成するための科目等を配置する。</u></p> <p>【経営情報教育研究領域】 <u>グローバルな立場から地域社会や国際社会の問題を俯瞰的・客観的に分析し、地域の経済、産業、情報化を担う人材を養成するための科目等を配置する。</u></p> <p>【観光環境教育研究領域】 <u>観光に関する学術的な研究を通じて、沖縄をはじめとする諸地域が直面する問題に総合的かつ科学的に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。</u></p> <p>【健康科学教育研究領域】 <u>国際的かつ学際的な視野と人間の健康に関する総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な研究に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。</u></p> <p><u>このように、修士課程の言語文化教育研究領域と本博士後期課程は、環太平洋の地域文化研究という教育研究の連続性をもって接続している。また、教員構成や科目においても、</u></p>	

新	旧
両課程は密接な関係をもって、継続性のある研究指導も可能となる。	

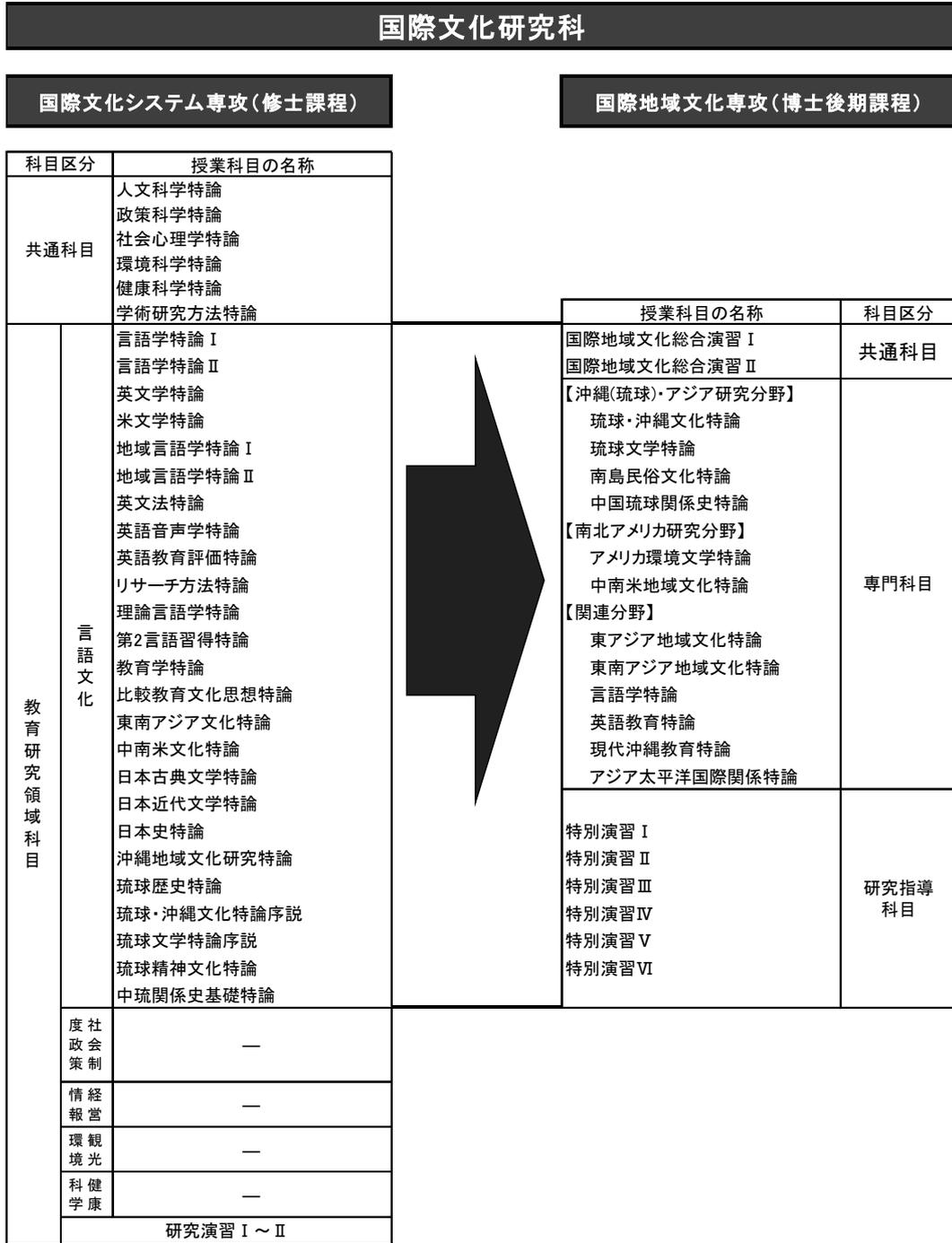
(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料 11

新	旧																																																																																					
修士課程と博士後期課程の関係図																																																																																						
国際文化研究科																																																																																						
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">国際文化システム専攻(修士課程)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">国際地域文化専攻(博士後期課程)</td> </tr> </table>		国際文化システム専攻(修士課程)	国際地域文化専攻(博士後期課程)																																																																																			
国際文化システム専攻(修士課程)	国際地域文化専攻(博士後期課程)																																																																																					
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>授業科目の名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">共通科目</td> <td>人文科学特論</td> </tr> <tr> <td>政策科学特論</td> </tr> <tr> <td>社会心理学特論</td> </tr> <tr> <td>環境科学特論</td> </tr> <tr> <td>健康科学特論</td> </tr> <tr> <td>学術研究方法特論</td> </tr> <tr> <td>言語学特論Ⅰ</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">教育研究領域科目</td> <td>言語学特論Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>英文学特論</td> </tr> <tr> <td>米文学特論</td> </tr> <tr> <td>地域言語学特論Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>地域言語学特論Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>英文法特論</td> </tr> <tr> <td>英語音声学特論</td> </tr> <tr> <td>英語教育評価特論</td> </tr> <tr> <td>リサーチ方法特論</td> </tr> <tr> <td>理論言語学特論</td> </tr> <tr> <td>第2言語習得特論</td> </tr> <tr> <td>教育学特論</td> </tr> <tr> <td>比較教育文化思想特論</td> </tr> <tr> <td>東南アジア文化特論</td> </tr> <tr> <td>中南米文化特論</td> </tr> <tr> <td>日本古典文学特論</td> </tr> <tr> <td>日本近代文学特論</td> </tr> <tr> <td>日本史特論</td> </tr> <tr> <td>沖縄地域文化研究特論</td> </tr> <tr> <td>琉球歴史特論</td> </tr> <tr> <td>琉球・沖縄文化特論序説</td> </tr> <tr> <td>琉球文学特論序説</td> </tr> <tr> <td>琉球精神文化特論</td> </tr> <tr> <td>中琉関係史基礎特論</td> </tr> <tr> <td>度社 政 策 制</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>情報 報 告</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>環 境 光</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>科 理 学</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">研究演習Ⅰ～Ⅱ</td> </tr> </tbody> </table>	科目区分	授業科目の名称	共通科目	人文科学特論	政策科学特論	社会心理学特論	環境科学特論	健康科学特論	学術研究方法特論	言語学特論Ⅰ	教育研究領域科目	言語学特論Ⅱ	英文学特論	米文学特論	地域言語学特論Ⅰ	地域言語学特論Ⅱ	英文法特論	英語音声学特論	英語教育評価特論	リサーチ方法特論	理論言語学特論	第2言語習得特論	教育学特論	比較教育文化思想特論	東南アジア文化特論	中南米文化特論	日本古典文学特論	日本近代文学特論	日本史特論	沖縄地域文化研究特論	琉球歴史特論	琉球・沖縄文化特論序説	琉球文学特論序説	琉球精神文化特論	中琉関係史基礎特論	度社 政 策 制	—	情報 報 告	—	環 境 光	—	科 理 学	—		研究演習Ⅰ～Ⅱ	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>授業科目の名称</th> <th>科目区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際地域文化総合演習Ⅰ</td> <td rowspan="2">共通科目</td> </tr> <tr> <td>国際地域文化総合演習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【沖縄(琉球)・アジア研究分野】</td> <td rowspan="10">専門科目</td> </tr> <tr> <td>琉球・沖縄文化特論</td> </tr> <tr> <td>琉球文学特論</td> </tr> <tr> <td>南島民俗文化特論</td> </tr> <tr> <td>中国琉球関係史特論</td> </tr> <tr> <td>【南北アメリカ研究分野】</td> </tr> <tr> <td>アメリカ環境文学特論</td> </tr> <tr> <td>中南米地域文化特論</td> </tr> <tr> <td>【関連分野】</td> </tr> <tr> <td>東アジア地域文化特論</td> </tr> <tr> <td>東南アジア地域文化特論</td> </tr> <tr> <td>言語学特論</td> </tr> <tr> <td>英語教育特論</td> </tr> <tr> <td>現代沖縄教育特論</td> </tr> <tr> <td>アジア太平洋国際関係特論</td> </tr> <tr> <td>特別演習Ⅰ</td> <td rowspan="6">研究指導科目</td> </tr> <tr> <td>特別演習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>特別演習Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>特別演習Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>特別演習Ⅴ</td> </tr> <tr> <td>特別演習Ⅵ</td> </tr> <tr> <td>国際政治特論Ⅰ</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>国際政治特論Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>東アジア地域特論</td> </tr> <tr> <td>情報 報 告</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>環 境 光</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>科 理 学</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">研究演習Ⅰ～Ⅱ</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目の名称	科目区分	国際地域文化総合演習Ⅰ	共通科目	国際地域文化総合演習Ⅱ	【沖縄(琉球)・アジア研究分野】	専門科目	琉球・沖縄文化特論	琉球文学特論	南島民俗文化特論	中国琉球関係史特論	【南北アメリカ研究分野】	アメリカ環境文学特論	中南米地域文化特論	【関連分野】	東アジア地域文化特論	東南アジア地域文化特論	言語学特論	英語教育特論	現代沖縄教育特論	アジア太平洋国際関係特論	特別演習Ⅰ	研究指導科目	特別演習Ⅱ	特別演習Ⅲ	特別演習Ⅳ	特別演習Ⅴ	特別演習Ⅵ	国際政治特論Ⅰ	—	国際政治特論Ⅱ	東アジア地域特論	情報 報 告	—	環 境 光	—	科 理 学	—		研究演習Ⅰ～Ⅱ
科目区分	授業科目の名称																																																																																					
共通科目	人文科学特論																																																																																					
	政策科学特論																																																																																					
	社会心理学特論																																																																																					
	環境科学特論																																																																																					
	健康科学特論																																																																																					
	学術研究方法特論																																																																																					
	言語学特論Ⅰ																																																																																					
教育研究領域科目	言語学特論Ⅱ																																																																																					
	英文学特論																																																																																					
	米文学特論																																																																																					
	地域言語学特論Ⅰ																																																																																					
	地域言語学特論Ⅱ																																																																																					
	英文法特論																																																																																					
	英語音声学特論																																																																																					
	英語教育評価特論																																																																																					
	リサーチ方法特論																																																																																					
	理論言語学特論																																																																																					
	第2言語習得特論																																																																																					
	教育学特論																																																																																					
	比較教育文化思想特論																																																																																					
	東南アジア文化特論																																																																																					
中南米文化特論																																																																																						
日本古典文学特論																																																																																						
日本近代文学特論																																																																																						
日本史特論																																																																																						
沖縄地域文化研究特論																																																																																						
琉球歴史特論																																																																																						
琉球・沖縄文化特論序説																																																																																						
琉球文学特論序説																																																																																						
琉球精神文化特論																																																																																						
中琉関係史基礎特論																																																																																						
度社 政 策 制	—																																																																																					
情報 報 告	—																																																																																					
環 境 光	—																																																																																					
科 理 学	—																																																																																					
	研究演習Ⅰ～Ⅱ																																																																																					
授業科目の名称	科目区分																																																																																					
国際地域文化総合演習Ⅰ	共通科目																																																																																					
国際地域文化総合演習Ⅱ																																																																																						
【沖縄(琉球)・アジア研究分野】	専門科目																																																																																					
琉球・沖縄文化特論																																																																																						
琉球文学特論																																																																																						
南島民俗文化特論																																																																																						
中国琉球関係史特論																																																																																						
【南北アメリカ研究分野】																																																																																						
アメリカ環境文学特論																																																																																						
中南米地域文化特論																																																																																						
【関連分野】																																																																																						
東アジア地域文化特論																																																																																						
東南アジア地域文化特論																																																																																						
言語学特論																																																																																						
英語教育特論																																																																																						
現代沖縄教育特論																																																																																						
アジア太平洋国際関係特論																																																																																						
特別演習Ⅰ	研究指導科目																																																																																					
特別演習Ⅱ																																																																																						
特別演習Ⅲ																																																																																						
特別演習Ⅳ																																																																																						
特別演習Ⅴ																																																																																						
特別演習Ⅵ																																																																																						
国際政治特論Ⅰ	—																																																																																					
国際政治特論Ⅱ																																																																																						
東アジア地域特論																																																																																						
情報 報 告	—																																																																																					
環 境 光	—																																																																																					
科 理 学	—																																																																																					
	研究演習Ⅰ～Ⅱ																																																																																					
<p>【基礎となる修士課程との関係について】 国際地域文化専攻(博士後期課程)は、国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)において構成する5つの教育研究領域(言語文化、社会制度政策、経営情報、観光環境、健康科学)のうち、「言語文化教育研究領域」を基礎に発展させた国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)として設置する計画である。</p> <p>修士課程の「言語文化教育研究領域」においては、沖縄地域文化研究特論や琉球歴史特論、琉球文学特論、中南米文化特論、英文学特論など、地域や文化を研究する基礎となる科目により編成している。また、「社会制度政策教育研究領域」には、国際政治特論や東アジア地域特論など、国際的な視点から地域や文化を深く理解する科目を配置している。</p> <p>このように修士課程と博士後期課程は、地域文化研究を柱としてつなげており、博士後期課程で、より広い視点と深い学識を有する研究者の養成を目指す。</p>																																																																																						

※原寸版を次頁に添付する。

(新)

修士課程と博士後期課程の関係図

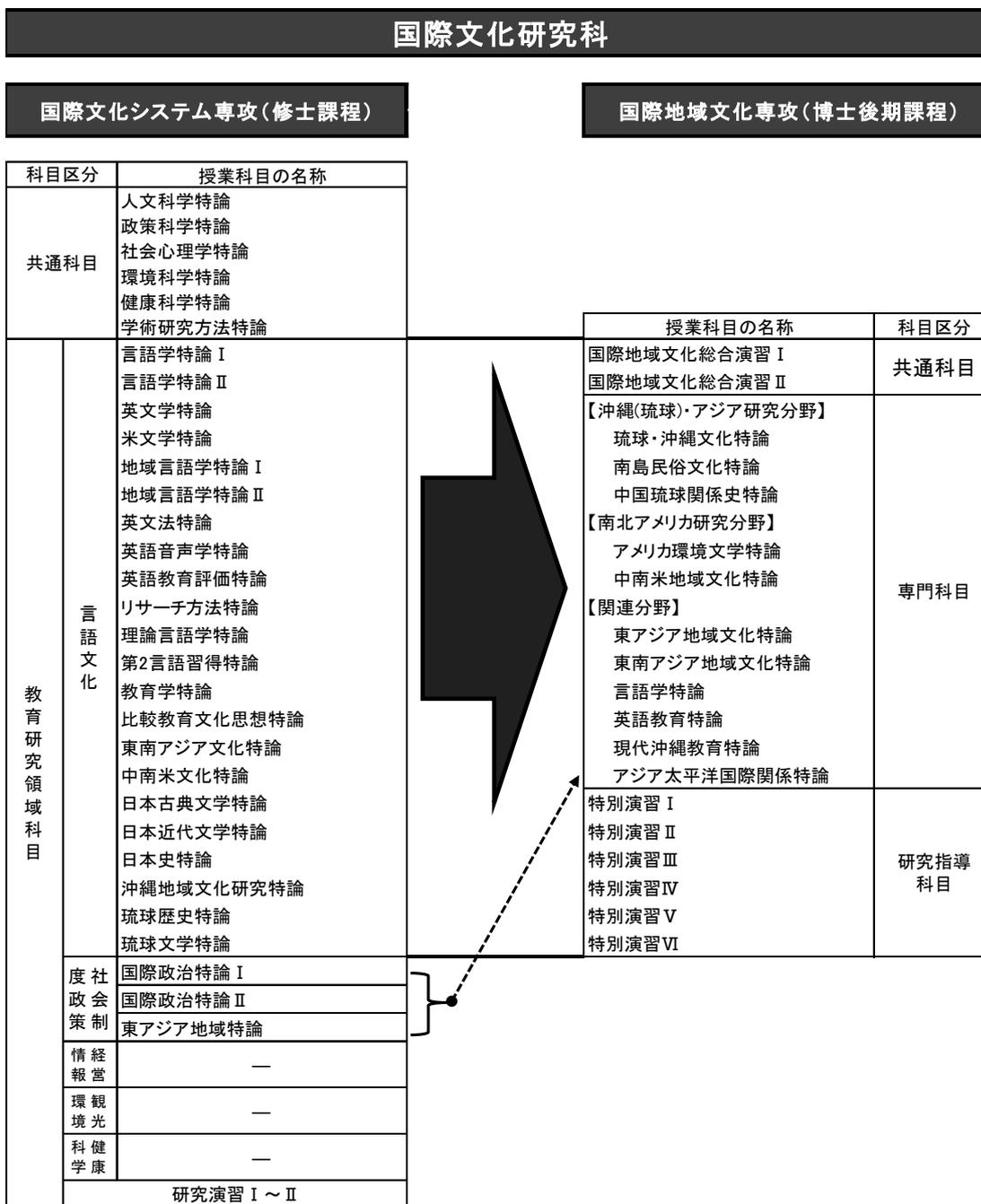


[基礎となる修士課程との関係について]

国際地域文化専攻(博士後期課程)は、国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)において構成する5つの教育研究領域(言語文化、社会制度政策、経営情報、観光環境、健康科学)のうち、「言語文化教育研究領域」を基礎に発展させ、環太平洋の地域文化研究という教育研究の連続性をもって接続している。

(10)

修士課程と博士後期課程の関係図



[基礎となる修士課程との関係について]

国際地域文化専攻(博士後期課程)は、国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)において構成する5つの教育研究領域(言語文化、社会制度政策、経営情報、観光環境、健康科学)のうち、「言語文化教育研究領域」を基礎に発展させた国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)として設置する計画である。

修士課程の「言語文化教育研究領域」においては、沖縄地域文化研究特論や琉球歴史特論、琉球文学特論、中南米文化特論、米文学特論など、地域や文化を研究する基盤となる科目により編成している。また、「社会制度政策教育研究領域」には、国際政治特論や東アジア地域特論など、国際的な視座から地域や文化を深く理解する科目を配置している。

このように修士課程と博士後期課程は、地域文化研究を柱としてつなげており、博士後期課程で、より広い視点と深い学識を有する研究者の養成を目指す。

2. アドミッション・ポリシーについて

アドミッション・ポリシーについては、修士課程の言語文化教育研究領域が博士後期課程の基礎として位置付けることを明確にするために、下記の新旧対照表のとおり修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (22 ページ)

新	旧
<p>ク 入学者選抜の概要</p> <p>1. アドミッション・ポリシー</p> <p>本博士後期課程のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）は以下のとおりである。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）</p> <p>国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に入学を希望する人には以下のことを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環太平洋の地域及び文化的課題に関して、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための <u>修士</u> 課程修了程度の専門的知識と研究能力を有していること。 2. 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。 3. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。 </div>	<p>ク 入学者選抜の概要</p> <p>1. アドミッション・ポリシー</p> <p>国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に入学を希望する人には以下のことを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 環太平洋 <u>地域</u> の地域及び文化的課題に関して、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための <u>博士前期課程</u> 修了程度の専門的知識と研究能力を有していること。 (2) 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。 (3) 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料1

新	旧
<p>Ⅲ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）</p> <p>国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に入学を希望する人には以下のことを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環太平洋の地域及び文化的課題に関し 	<p>Ⅲ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）</p> <p>国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に入学を希望する人には以下のことを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環太平洋 <u>地域</u> の地域及び文化的課題に

新	旧
<p>て、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための <u>修士課程</u> 修了程度の専門的知識と研究能力を有すること。</p> <p>2. 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。</p> <p>3. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。</p>	<p>関して、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための <u>博士前期課程</u> 修了程度の専門的知識と研究能力を有していること。</p> <p>2. 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。</p> <p>3. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。</p>

アドミッション・ポリシー1 で修正した「環太平洋地域の地域及び文化的課題に関して、・・・」の部分の修正（「環太平洋地域の「地域」を削除）については、「養成する人材」「ディプロマ・ポリシー」「主たる学問分野」等においても同様の表記部分を修正する。

(改善意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

4. <修士課程との連続性が不明確>

特任教員以外の教員全員が修士課程の講義科目及び研究指導を担当しており、修士課程から博士後期課程への連続性ある研究指導が可能との説明があるが、これらの教員はいずれも博士後期課程の科目を1科目しか担当しておらず、多くの科目を担当することとなる他大学から採用予定の3名の教員が修士課程の指導を行うかどうかは説明がない。修士課程からの連続性ある教育・研究指導が十分になされるかが明確となるよう説明を追加するか、適切に改めること。

(対応)

審査意見4を踏まえ、修士課程からの連続性ある教育・研究指導が十分になされることを明確にするため、他大学から採用予定の3名の教員を含めて全教員が修士課程の指導を行うことを明記する。

当該3名の教員の本学修士課程での担当科目は、下表のとおりである。

なお、修士課程における担当授業科目については、「修士課程と博士後期課程の関係図」において明記する。

教員氏名	博士後期課程 担当授業科目の名称	修士課程 担当授業科目の名称	備考
ハテルマ エイキチ 波照間 永吉	国際地域文化総合演習Ⅰ 国際地域文化総合演習Ⅱ 琉球・沖縄文化特論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ 特別演習Ⅴ 特別演習Ⅵ	琉球・沖縄文化特論序説 言語文化研究演習Ⅰ 言語文化研究演習Ⅱ	言語文化研究演習Ⅰ、言語文化研究演習Ⅱは、研究指導科目である。
ヤマザトジュンイチ 山里 純一	国際地域文化総合演習Ⅰ 国際地域文化総合演習Ⅱ 南島民俗文化特論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ 特別演習Ⅴ 特別演習Ⅵ	琉球精神文化特論 言語文化研究演習Ⅰ 言語文化研究演習Ⅱ	言語文化研究演習Ⅰ、言語文化研究演習Ⅱは、研究指導科目である。
アカミネ マモル 赤嶺 守	国際地域文化総合演習Ⅰ 国際地域文化総合演習Ⅱ 中国琉球関係史特論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ 特別演習Ⅴ 特別演習Ⅵ	中琉関係史基礎特論 言語文化研究演習Ⅰ 言語文化研究演習Ⅱ	言語文化研究演習Ⅰ、言語文化研究演習Ⅱは、研究指導科目である。

このように開設後は、専任教員全員が修士課程の講義科目、研究指導科目のいずれか、もしくは両方を兼ねることから、修士課程から博士後期課程への連続性ある研究指導も可能となる。

以上のことを踏まえ、下記の新旧対照表のとおり修正する。(別途、審査意見7により、教員1名を補充するので、修正後の教員数は補充後の人数としている)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
<p>2. 教員配置</p> <p>博士後期課程担当の専任教員は <u>11 名</u> であり、9 名が教授の職位である。また 1 名の兼任講師を配置する。専任教員の年齢構成は、60 歳代が 5 名、50 歳代が 4 名、40 歳代が <u>2 名</u> で、教育研究活動における高度な指導力を有する教員が配置され、加えて教育研究活動の継続性が保たれたバランスの良い構成となっている。</p> <p>また博士後期課程担当の専任教員の <u>10 名</u> は、博士号の保有者である。このような教員構成により、国際社会及び地域社会で活躍できる国際水準の人材を養成することができる。</p> <p>さらに、専任教員全員が修士課程の講義科目、研究指導科目 <u>のいずれか、もしくは両方を兼ねる</u> ことから、修士課程から博士後期課程への連続性のある研究指導も可能となる。</p>	<p>2. 教員配置</p> <p>博士後期課程担当の専任教員は <u>10 名</u> であり、9 名が教授の職位である。また 1 名の兼任講師を配置する。専任教員の年齢構成は、60 歳代が 5 名、50 歳代が 4 名、40 歳代が <u>1 名</u> で、教育研究活動における高度な指導力を有する教員が配置され、加えて教育研究活動の継続性が保たれたバランスの良い構成となっている。</p> <p>また博士後期課程担当の専任教員の <u>9 名</u> は、博士号の保有者である。このような教員構成により、国際社会及び地域社会で活躍できる国際水準の人材を養成することができる。</p> <p>さらに、<u>特任教員として配置する教員を除き、専任教員全員が修士課程の講義科目、研究指導科目を兼ねている</u> ことから、修士課程から博士後期課程への連続性のある研究指導も可能となる。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料 11

新	旧
<p>修士課程と博士後期課程の関係図</p> <p>国際文化研究科</p> <p>国際文化システム専攻(修士課程) 国際地域文化専攻(博士後期課程)</p>	<p>修士課程と博士後期課程の関係図</p> <p>国際文化研究科</p> <p>国際文化システム専攻(修士課程) 国際地域文化専攻(博士後期課程)</p>

※原寸版は、別途審査意見 3 により、pp. 15-16 の添付を参照。

(改善意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

5. <学生確保の見込みが不明確>

入学定員を2名と設定しているが、修士課程在籍者に対するアンケートでは、進学に前向きな回答をしたのは「入学を検討する」と回答した1名のみであり、また、近隣に同分野の大学院が既に設置されていることを踏まえると、定員を充足できる見込みが十分か不明確である。継続して安定した入学者を確保できることについて、客観的なデータを追加する等により、改めて説明すること。

(対応)

審査意見5を踏まえ、客観的なデータの追加として、本学修士課程在籍者に対するアンケートを再実施した結果「入学を検討する」と前向きな回答をした者が8名であったこと、また、近隣の同分野の大学院との差別化が図られることについて、次のとおり説明する。これにより、継続して安定した入学者を確保できることを明確にする。

1. 学生確保の見通し

本博士後期課程の設置にあたり、学生の確保の見通しを立てるために、本学修士課程の在籍生を対象に改めて進学意向調査を行った。修士課程2年次学生に対しては、1年次だった平成30年1月に同調査に回答しているが、初回実施から約5カ月が経った現在、学生に対し本博士後期課程の教育課程や研究指導内容等を明確に提示することで、修了後の進路に変更があり得ることを考慮しての再調査である。修士課程1年次学生に対しては、初めての実施となる。

再調査の結果、回答した修士課程在籍生16名の内、8名から本博士後期課程への進学を「検討したい」と前向きな回答を得た。その8名の学年内訳は、1年次4名、2年次4名であった。

2年次の4名が「検討したい」と回答したことについては、平成30年1月実施の初回調査より、3名増える結果となった。

問2. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)(以下、本学博士後期課程とする。)が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。(どれか1つを選択)

1 希望する	0	0%
2 検討したい	8	100%
3 希望しない	0	0%
合計	8	100%

学年内訳	1年	2年	計
1 希望する	0	0	0
2 検討したい	4	4	8
3 希望しない	0	0	0
合計	4	4	8

以上の調査結果及び初回調査結果における本学修士課程修了生10名の進学希望者を勘案すれば、本博士後期課程の入学定員2名については、継続的に学生を確保できる見通しがあると考えられる。

2. 近隣の同分野の大学院との差別化について

本博士後期課程における沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太

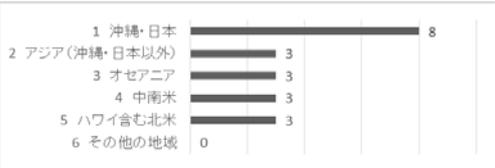
平洋の地域文化の研究を行う領域は、他大学院にはない特色であると考え。したがって、こうした研究領域及び教員組織を擁する本博士後期課程に進学を希望する他大学院修了者も存在することが想定される。

本学以外から本博士後期課程に就任予定の3名の教員は、2名がすでに前職を退職しており、1名は平成31年3月に退職する予定である。琉球文学、琉球文化、中琉交流史、南島民俗論を専門とする3名の教員が就任するにより、本博士後期課程は大きな特色を有する教育研究を行うことが可能であると考えられる。

このように近隣の大学にある博士後期課程と本学の博士後期課程の教育研究との差別化は可能であり、競合することはないと考える。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (2~3ページ)

新	旧												
<p>i 本学修士課程在学生の調査結果 <u>(再調査)</u> <u>本博士後期課程の設置に当たり、学生の確保の見通しを立てるために、本学修士課程の在生を対象に進学意向調査を行った。</u> <u>修士課程2年次学生に対しては、1年次だった平成30年1月に同調査を実施したが、学生の確保の見通しを立てるには、不十分な結果であった。したがって、初回実施から約5カ月が経った平成30年6月、学生に対し本博士後期課程の教育課程や研究指導内容等を明確に提示することで、修了後の進路に変更があり得ることを考慮し、修士課程2年次学生に対して再調査を行った。</u> <u>なお、修士課程1年次学生に対しては、初めての実施であった。</u></p> <p>調査の結果、本学修士課程在生において、回答した16名の内、修士課程修了後「進学」を考えている者は5名であった。「その他」と回答した3名は、「進学と就職同時に行うことを希望」などと、いずれも進学意向を含んでいるため、進学希望者に該当させた。合計8名を進学希望者としている。</p> <p>問1. 修士課程修了後の進路をどのように考えていますか。(どれか一つを選択)</p>	<p>i 本学修士課程在学生の調査結果 (追記)</p> <p>調査の結果、本学修士課程在生において、回答した11名の内、修士課程修了後「進学」を考えている者は2名であった。</p> <p>問1. 修士課程修了後の進路をどのように考えていますか。(どれか一つを選択)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;">1 進学</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: right;">18%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">2 就職</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: right;">82%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">3 その他</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: right;">0%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">合計</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: right;">100%</td> </tr> </tbody> </table>	1 進学	2	18%	2 就職	9	82%	3 その他	0	0%	合計	11	100%
1 進学	2	18%											
2 就職	9	82%											
3 その他	0	0%											
合計	11	100%											

新			旧																																																																		
<table border="1"> <tr><td>1 進学</td><td>5</td><td>31%</td></tr> <tr><td>2 就職</td><td>8</td><td>50%</td></tr> <tr><td>3 その他</td><td>3</td><td>19%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>16</td><td>100%</td></tr> </table> <p>その他の記述 ・進学と就職同時に行うことを希望 ・就職後、一定期間経過後、進学する ・復職後、一定期間経過後、検討したい</p> <p>その 8 名中、8 名が本博士後期課程への進学を「検討したい」と答えた。</p> <p>問 2. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）（以下、本学博士後期課程とする。）が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。（どれか 1 つを選択）</p> <table border="1"> <tr><td>1 希望する</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>2 検討したい</td><td>8</td><td>100%</td></tr> <tr><td>3 希望しない</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>8</td><td>100%</td></tr> </table> <p>本博士後期課程への進学を「検討したい」と答えた 8 名の「関心のある地域」（複数回答可）については、多い順に「沖縄・日本」8 名、次いで、「アジア（沖縄・日本以外）」「オセアニア」「中南米」「ハワイ含む北米」が 3 名と回答があり、これは本学博士後期課程の研究分野及び教育課程へのニーズが十分にあることを示すものであり、教員配置とも合致すると考える。</p> <p>問 3. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。（複数回答可）</p> <table border="1"> <tr><td>1 沖縄・日本</td><td>8</td></tr> <tr><td>2 アジア（沖縄・日本以外）</td><td>3</td></tr> <tr><td>3 オセアニア</td><td>3</td></tr> <tr><td>4 中南米</td><td>3</td></tr> <tr><td>5 ハワイ含む北米</td><td>3</td></tr> <tr><td>6 その他の地域</td><td>0</td></tr> </table>  <p>本博士後期課程への進学を「検討したい」と</p>			1 進学	5	31%	2 就職	8	50%	3 その他	3	19%	合計	16	100%	1 希望する	0	0%	2 検討したい	8	100%	3 希望しない	0	0%	合計	8	100%	1 沖縄・日本	8	2 アジア（沖縄・日本以外）	3	3 オセアニア	3	4 中南米	3	5 ハワイ含む北米	3	6 その他の地域	0	<p>その 2 名中、本博士後期課程への進学を「希望する」と答えた者はいなかったが、1 名が「検討したい」と答えた。</p> <p>問 2. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）（以下、本学博士後期課程とする。）が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。（どれか 1 つを選択）</p> <table border="1"> <tr><td>1 希望する</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>2 検討したい</td><td>1</td><td>50%</td></tr> <tr><td>3 希望しない</td><td>1</td><td>50%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>2</td><td>100%</td></tr> </table> <p>「検討したい」と答えた当該 1 名の学生は、「博士後期課程への進学に際して重視すること」（複数回答可）として、「夜間、土日等の授業開設」「学費・奨学金」「授業料減免制度」と答えている。また、他の回答者からの意見・要望（問 8）を含め、明確な進学希望者がない中でも進学を示唆するような意見等も見られたことから、教育研究環境整備のあり様によって学生を確保できる可能性があることが考えられる。</p> <p>問 6. 博士後期課程への進学に際して重視することは何ですか。（複数回答可）</p> <table border="1"> <tr><td>1 入学者選抜の方法</td><td>0</td></tr> <tr><td>2 夜間、土日等の授業開設</td><td>1</td></tr> <tr><td>3 教育課程</td><td>0</td></tr> <tr><td>4 研究指導体制</td><td>0</td></tr> <tr><td>5 学費・奨学金</td><td>1</td></tr> <tr><td>6 授業料減免制度</td><td>1</td></tr> <tr><td>7 長期履修制度</td><td>0</td></tr> <tr><td>8 その他</td><td>0</td></tr> </table> <p>一方、問 1 で就職を希望した在学生 9 名は、下記に示した本学修士課程修了生に対するア</p>			1 希望する	0	0%	2 検討したい	1	50%	3 希望しない	1	50%	合計	2	100%	1 入学者選抜の方法	0	2 夜間、土日等の授業開設	1	3 教育課程	0	4 研究指導体制	0	5 学費・奨学金	1	6 授業料減免制度	1	7 長期履修制度	0	8 その他	0
1 進学	5	31%																																																																			
2 就職	8	50%																																																																			
3 その他	3	19%																																																																			
合計	16	100%																																																																			
1 希望する	0	0%																																																																			
2 検討したい	8	100%																																																																			
3 希望しない	0	0%																																																																			
合計	8	100%																																																																			
1 沖縄・日本	8																																																																				
2 アジア（沖縄・日本以外）	3																																																																				
3 オセアニア	3																																																																				
4 中南米	3																																																																				
5 ハワイ含む北米	3																																																																				
6 その他の地域	0																																																																				
1 希望する	0	0%																																																																			
2 検討したい	1	50%																																																																			
3 希望しない	1	50%																																																																			
合計	2	100%																																																																			
1 入学者選抜の方法	0																																																																				
2 夜間、土日等の授業開設	1																																																																				
3 教育課程	0																																																																				
4 研究指導体制	0																																																																				
5 学費・奨学金	1																																																																				
6 授業料減免制度	1																																																																				
7 長期履修制度	0																																																																				
8 その他	0																																																																				

新	旧															
<p>答えた8名の「進学時期」は、「平成32年度」が3名、「平成34年度以降」が5名であった。</p> <p>なお、「平成31年度(開設年度)」及び「平成33年度」の回答者がいないことについては、広報活動や開設後の実績により出願者は増加すると考えている。</p> <p>問4. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。(どれか1つを選択)</p> <table border="1"> <tr> <td>1 平成31年度(開設年度)</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2 平成32年度</td> <td>3</td> <td>38%</td> </tr> <tr> <td>3 平成33年度</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4 平成34年度以降</td> <td>5</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>ii 本学修士課程修了生の調査結果 (略)</p> <p>以上、<u>修士課程在学学生及び修了生を対象にした調査結果から、本博士後期課程の入学定員2名については、継続的に学生を確保できる見通しがある</u>と考える。</p>	1 平成31年度(開設年度)	0	0%	2 平成32年度	3	38%	3 平成33年度	0	0%	4 平成34年度以降	5	63%	合計	8	100%	<p>アンケートに見るように、<u>社会経験を経て、進学意欲が芽生えてくることも考えられる。</u></p> <p>ii 本学修士課程修了生の調査結果 (略)</p> <p>以上の調査結果から、<u>本学博士後期課程への進学意向を有する多くの修士課程修了者がいること、また研究分野及び教育課程とニーズとが合致することが認められ、継続的な学生確保を図ることができる見通しがある</u>と考えられる。</p>
1 平成31年度(開設年度)	0	0%														
2 平成32年度	3	38%														
3 平成33年度	0	0%														
4 平成34年度以降	5	63%														
合計	8	100%														

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (5ページ)

新	旧
<p>②類似する分野を持つ沖縄県内の他大学大学院の設置状況より</p> <p>沖縄県内で博士後期課程を設置する大学院は4大学あり(1つは大学院大学)、その内、本博士後期課程と類似する分野を擁する博士後期課程は「人文社会科学研究科比較地域文化専攻」と「芸術文化学専攻」の2大学である。当専攻の平成29年度志願倍率は、それぞれ2.3倍、1.7倍であり、定員を満たしてい</p>	<p>②類似する分野を持つ沖縄県内の他大学大学院の設置状況より</p> <p>沖縄県内で博士後期課程を設置する大学院は4大学あり(1つは大学院大学)、その内、本博士後期課程と類似する分野を擁する博士後期課程は「人文社会科学研究科比較地域文化専攻」と「芸術文化学専攻」の2大学である。当専攻の平成29年度志願倍率は、それぞれ2.3倍、1.7倍であり、定員を満たしてい</p>

新	旧
<p>る。県内において、当分野での高度な研究を希望する者が一定数存在することを示している。(資料2…近隣競合校の志願状況)</p> <p>また、沖縄県内で大学院修士課程のみを擁する大学院は、<u>本学を含み4大学あり</u>、その中で、本博士後期課程と類似する分野を持つ専攻は、「南島文化専攻」「英米言語文化専攻」「沖縄・東アジア地域研究専攻」「異文化コミュニケーション学専攻」「<u>(本学)国際文化システム専攻</u>」がある。これらの修了生は、本学博士後期課程への進学候補者となり得ると考えている。</p> <p>本博士後期課程における沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化の研究を行う領域は、他大学院にはない特色であり、こうした研究領域及び教員組織を擁する本博士後期課程に進学を希望する他大学院修士課程修了生も存在することが想定される。</p> <p><u>本学以外から本博士後期課程に就任予定の3名の教員は、2名がすでに前職を退職しており、1名は平成31年3月に退職する予定である。琉球文学、琉球文化、中琉交流史、南島民俗論を専門とする3名の教員が就任するにより、本博士後期課程は大きな特色を有する教育研究を行うことが可能である</u>と考える。</p> <p><u>このように近隣の大学にある博士後期課程と本学の博士後期課程の教育研究との差別化は可能であり、競合することはないと考える。</u></p>	<p>る。県内において、当分野での高度な研究を希望する者が一定数存在することを示している。(資料2…近隣競合校の志願状況)</p> <p>本博士後期課程における沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行う領域は、他大学院にはない特色であり、こうした研究領域及び教員組織を擁する本博士後期課程に進学を希望する他大学院修士課程学生も存在することが想定される。</p> <p>なお、沖縄県内で大学院修士課程のみを擁する大学院は、4大学あり、その中で、本博士後期課程と類似する分野を持つ専攻は、「南島文化専攻」「英米言語文化専攻」「沖縄・東アジア地域研究専攻」「異文化コミュニケーション学専攻」「<u>国際文化システム専攻</u>」がある。これらの修了生は、本学博士後期課程への進学候補者となり得ると考えている。</p>

(改善意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

6. <入学者受入れに際しての配慮が不明確>

修士課程から博士後期課程において連続した教育を行うに当たり、社会人や留学生など同大学に設置する修士課程以外から入学する者については、入学後の学修に一定の配慮を行うか、あるいは、博士後期課程の前提となる知識をアドミッション・ポリシーに明示するとともに、当該知識を十分に備えていることを入学試験で確認することが必要であると考えられるが、これらの取組がなされる計画となっているか明確でない。社会人・留学生等について、博士後期課程における円滑な学修が図られるための方策を具体的に説明すること。

(対応)

本博士後期課程では、履修計画の作成時期において、指導教員が学生の研究内容や博士論文テーマに応じて、特に必要と認めた場合には、本学の修士課程の講義科目の履修を勧め、研究能力を高める指導を行うこととしている。

審査意見6を踏まえ、修士課程から博士後期課程へ連続した教育を行うに当たり、特に社会人、留学生など、本学の修士課程以外から入学する者に対して、入学後の学修に一定の配慮を行う。また、共通科目に配置している「国際地域文化総合演習Ⅰ」「国際地域文化総合演習Ⅱ」では、博士後期課程における研究レベルへの導入的な役割も果たすことから、研究指導教員を中心に円滑な学修が図られるように補足的な指導を行う。このことについては下記の「オ 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」の「1. 教育方法」の項及び「ケ 大学院設置基準第14条による教育方法の実施」の「3. 履修指導及び研究指導の方法」の項で説明する。

さらに、アドミッション・ポリシーについては、「修士課程修了程度の専門的知識と研究能力を有していること」と掲げていることから、入学者選抜試験において「書面審査(修士論文等)」により修士課程修了程度の学力があるか確認することとしている。これについては「ク 入学者選抜の概要」の「3. 選抜方法」の項で説明する。

以上の取組みを、下記の新旧対照表で示した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12 ページ)

新	旧
<p>オ 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>1. 教育方法</p> <p>本博士後期課程では、3年間で学位請求論文を完成・提出させるための指導を行う。そのために必要な高度な専門知識と研究方法を講義と演習形式で提供し、その体系的修得を図るための仕組みを構築する。</p> <p>履修計画の作成時期において、指導教員は、<u>学生の研究内容や博士論文テーマに応じて特に必要と認めた場合には、本学の国際文化研究科 国際文化システム専攻(修士課程)の講</u></p>	<p>オ 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>1. 教育方法</p> <p>本博士後期課程では、3年間で学位請求論文を完成・提出させるための指導を行う。そのために必要な高度な専門知識と研究方法を講義と演習形式で提供し、その体系的修得を図るための仕組みを構築する。履修計画の作成時期において、指導教員は必要と認めた場合には、本学の国際文化研究科(修士課程)の講義科目の履修を勧め、<u>研究者としての資質能力</u>を高める指導を行う。特に、研究指導</p>

新	旧
<p>義科目の履修を勧め、<u>研究能力</u>を高める指導を行う。特に、<u>社会人や留学生など本学以外から入学する者に対し、入学後の学修に一定の教育的配慮を行う観点から、地域や文化を研究する基盤となる「沖縄地域文化研究特論」や「琉球歴史特論」「琉球・沖縄文化特論序説」「琉球文学特論序説」「琉球精神文化特論」「中琉関係史基礎特論」「中南米文化特論」「米文学特論」などの履修を勧める。また、共通科目に配置している「国際地域文化総合演習Ⅰ」「国際地域文化総合演習Ⅱ」では、<u>博士後期課程における研究レベルへの導入的な役割も果たすことから、研究指導教員を中心に円滑な学修が図られるように補足的な指導を行う。</u>研究指導については、当該学生が主体的かつ高度な研究活動を行うよう指導する。</u></p> <p>本博士後期課程の教育課程は、共通科目及び専門科目、研究指導科目により編成されている。共通科目は、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加して発表・討論形式による指導を行う。専門科目は主として講義形式で行われ、研究指導科目は演習形式で行われる。専門科目は、30時間の授業をもって2単位の科目とし、2科目4単位以上の履修が必要である。研究指導科目は、「特別演習Ⅰ～Ⅵ」で構成され、前期と後期に履修し、計12単位である。したがって、修了要件とする単位数は20単位である。</p>	<p>については、当該学生が主体的かつ高度な研究活動を行うよう指導する。</p> <p>本博士後期課程の教育課程は、共通科目及び専門科目、研究指導科目により編成されている。共通科目は、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加して発表・討論形式による指導を行う。専門科目は主として講義形式で行われ、研究指導科目は演習形式で行われる。専門科目は、30時間の授業をもって2単位の科目とし、2科目4単位以上の履修が必要である。研究指導科目は、「特別演習Ⅰ～Ⅵ」で構成され、前期と後期に履修し、計12単位である。したがって、修了要件とする単位数は20単位である。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (24 ページ)

新	旧
<p>ケ 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施</p> <p>3. 履修指導及び研究指導の方法</p> <p>社会人学生、特に有職者においては、昼間の授業による単位取得は限定されることから、平日の夜間や週末及び夏季休業等にも授業又は研究指導を行うことを可能とする。</p>	<p>ケ 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施</p> <p>3. 履修指導及び研究指導の方法</p> <p>社会人学生、特に有職者においては、昼間の授業による単位取得は限定されることから、平日の夜間や週末及び夏季休業等にも授業又は研究指導を行うことを可能とする。</p>

新	旧
<p>指導教員は、社会人の入学時に当該学生の業務上の繁忙期や学習条件を考慮しながら、系統的、計画的な履修計画となるよう履修指導する。</p> <p><u>履修計画の作成時期において、指導教員は、学生の研究内容や博士論文テーマに応じて特に必要と認めた場合には、本学の国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の講義科目の履修を勧め、研究能力を高める指導を行う。特に、社会人や留学生など本学以外から入学する者に対し、入学後の学修に一定の教育的配慮を行う観点から、地域や文化を研究する基盤となる「沖縄地域文化研究特論」や「琉球歴史特論」「琉球・沖縄文化特論序説」「琉球文学特論序説」「琉球精神文化特論」「中琉関係史基礎特論」「中南米文化特論」「米文学特論」などの履修を勧める。また、共通科目に配置している「国際地域文化総合演習Ⅰ」「国際地域文化総合演習Ⅱ」では、博士後期課程における研究レベルへの導入的な役割も果たすことから、研究指導教員を中心に円滑な学修が図られるように補足的な指導を行う。</u></p> <p>施設の夜間等利用については、指導教員が必要と認める場合において、指導教員の指揮監督のもとに行わせることとする。</p> <p>なお、長期履修制度を適用する学生に対しては、6年を上限とする長期の修業年限を計画的に設定し履修指導を行う。</p>	<p>指導教員は、社会人の入学時に当該学生の業務上の繁忙期や学習条件を考慮しながら、系統的、計画的な履修計画となるよう履修指導する。</p> <p>また、施設の夜間等利用については、指導教員が必要と認める場合において、指導教員の指揮監督のもとに行わせることとする。</p> <p>なお、長期履修制度を適用する学生に対しては、6年を上限とする長期の修業年限を計画的に設定し履修指導を行う。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23 ページ)

新	旧
<p>「ク 入学者選抜の概要」</p> <p>3. 選抜方法</p> <p><u>本博士後期課程の前提となる知識、能力が十分に備わっていることを入学試験で確認するために、各選抜区分に応じて、書面審査、筆記試験、口述試験により合否を判定する。</u></p>	<p>「ク 入学者選抜の概要」</p> <p>3. 選抜方法</p> <p>(追加)</p>

新	旧
<p><u>具体的には、アドミッション・ポリシー1に明示されている能力を有するかどうか評価するための書面審査として、一般選抜及び社会人特別選抜では修士論文等により修士課程修了程度の学力があるか確認し、外国人留学生特別選抜では修士論文等及び日本語能力調査書により学力を確認する。同2の能力を評価するための筆記試験として、一般選抜及び外国人留学生特別選抜では外国語科目1科目を課し、社会人特別選抜では小論文及び外国語1科目を課す。同3の能力を評価するための口述試験は、すべての受験生に課す。</u></p> <p>(1) 一般選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面審査（修士論文等） ・筆記試験（外国語1科目） <ul style="list-style-type: none"> 英語又は選択する地域の言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、漢文など）から1科目を選択する。 ・口述試験 <p>(2) 特別選抜</p> <p>①社会人特別選抜</p> <p>社会人特別選抜においては、専門的な学力検査とともに、多様な経歴についても評価の対象とする。それらを書面審査や筆記試験（小論文、外国語）、口述試験で測ることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面審査（修士論文等） ・筆記試験（小論文、外国語1科目） <ul style="list-style-type: none"> 外国語試験は、原則として選択する地域の言語（英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、漢文など）から1科目を選択する。 ・口述試験 <p>②外国人留学生特別選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面審査（修士論文等及び日本語力調査書） <ul style="list-style-type: none"> 原則として日本語能力試験 N1 程度 ・筆記試験（小論文） 	<p>(1) 一般選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面審査（修士論文等） ・筆記試験（外国語1科目） <ul style="list-style-type: none"> 英語又は選択する地域の言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、漢文など）から1科目を選択する。 ・口述試験 <p>(2) 特別選抜</p> <p>①社会人特別選抜</p> <p>社会人特別選抜においては、専門的な学力検査とともに、多様な経歴についても評価の対象とする。それらを書面審査や筆記試験（小論文、外国語）、口述試験で測ることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面審査（修士論文等） ・筆記試験（小論文、外国語1科目） <ul style="list-style-type: none"> 外国語試験は、原則として選択する地域の言語（英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、漢文など）から1科目を選択する。 ・口述試験 <p>②外国人留学生特別選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面審査（修士論文等及び日本語力調査書） <ul style="list-style-type: none"> 原則として日本語能力試験 N1 程度 ・筆記試験（小論文）

新	旧
<p>・口述試験</p> <p>[大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)入学試験概要]</p> <p>(表略)</p>	<p>・口述試験</p> <p>[大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)入学試験概要]</p> <p>(表略)</p>

(是正意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

7. <教員の年齢構成が不適切>

教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。

(対応)

審査意見 7 を踏まえ、若手教員 1 名を補充し、教員の構成を 11 名とすることで教員配置の適正化を図ることとする。

また、教員組織の将来構想を明確にすることで、教育研究の継続性が維持できることを次のとおり具体的に示した。(「(図表) 教員組織の将来構想」参照)。

1. 若手教員の補充による教員年齢構成の偏りの是正

本博士後期課程の教員組織は、年齢構成が高齢に偏っていたため、専任教員として若手教員 1 名を補充することで是正する。これにより、定年を超える教員 5 名、定年を超えない教員 6 名、合計 11 名の構成とし、定年を超えない教員を過半数とする。補充する教員は、下表のとおりである。

職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	現職 (就任年月)
准教授	テルヤ マコト 照屋 理 <平成 31 年 4 月>		博士 (芸術 学)	琉球文学特論	1	2	名桜大学大学院国際 文化研究科(M) 准教授(平 28.4)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
<p>2. 教員配置</p> <p>博士後期課程担当の専任教員は <u>11 名</u> であり、9 名が教授の職位である。また 1 名の兼任講師を配置する。専任教員の年齢構成は、60 歳代が 5 名、50 歳代が 4 名、40 歳代が <u>2 名</u> で、教育研究活動における高度な指導力を有する教員が配置され、加えて教育研究活動の継続性が保たれたバランスの良い構成となっている。</p> <p>また、<u>博士後期課程担当の専任教員の 10 名</u> は、博士号の保有者である。このような教員構成により、国際社会及び地域社会で活躍できる国際水準の人材を養成することができる。</p> <p>さらに、専任教員全員が修士課程の講義科目、研究指導科目 <u>のいずれか、もしくは両方を兼ねる</u> ことから、修士課程から博士後期課</p>	<p>2. 教員配置</p> <p>博士後期課程担当の専任教員は <u>10 名</u> であり、9 名が教授の職位である。また 1 名の兼任講師を配置する。専任教員の年齢構成は、60 歳代が 5 名、50 歳代が 4 名、40 歳代が <u>1 名</u> で、教育研究活動における高度な指導力を有する教員が配置され、加えて教育研究活動の継続性が保たれたバランスの良い構成となっている。</p> <p>また博士後期課程担当の専任教員の <u>9 名</u> は、博士号の保有者である。このような教員構成により、国際社会及び地域社会で活躍できる国際水準の人材を養成することができる。</p> <p>さらに、<u>特任教員として配置する教員を除き、専任教員全員が修士課程の講義科目、研究指導科目を兼ねている</u> ことから、修士課程</p>

新	旧
程への連続性のある研究指導も可能となる。	から博士後期課程への連続性のある研究指導も可能となる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (各ページ)

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>ウ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1. 教育課程編成の基本方針</p> <p>(上略)</p> <p>専門科目は、…(中略)を目的に <u>12科目</u>を編成する。具体的には、…「琉球・沖縄文化特論」、<u>「琉球文学特論」</u>、「南島民俗文化特論」、…を配置する。加えて、…関連科目として位置付ける。学生は、自身の研究テーマに応じて、<u>12科目</u>から 2 科目 4 単位以上を履修する。</p> <p>(7～10 ページ)</p> <p>ウ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>2. 授業科目配置の目的等</p> <p>(1) 共通科目</p> <p>(略)</p> <p>(2) 専門科目</p> <p>専門科目 <u>12科目</u>の配置の目的等は次のとおりである。</p> <p>①「琉球・沖縄文化特論」</p> <p>(略)</p> <p>②「<u>琉球文学特論</u>」</p> <p><u>琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ (『おもろさうし』) に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。</u></p> <p><u>本講では、それらの文学領域の中でも、特に『おもろさうし』以外の呪術文学 (奄美のタハブエ、</u></p>	<p>(5～6 ページ)</p> <p>ウ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1. 教育課程編成の基本方針</p> <p>(上略)</p> <p>専門科目は、…(中略)を目的に <u>11科目</u>を編成する。具体的には、…「琉球・沖縄文化特論」、<u>(追加)</u>、「南島民俗文化特論」、…を配置する。加えて、…関連科目として位置付ける。学生は、自身の研究テーマに応じて、<u>11科目</u>から 2 科目 4 単位以上を履修する。</p> <p>(7～10 ページ)</p> <p>ウ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>2. 授業科目配置の目的等</p> <p>(1) 共通科目</p> <p>(略)</p> <p>(2) 専門科目</p> <p>専門科目 <u>11科目</u>の配置の目的等は次のとおりである。</p> <p>①「琉球・沖縄文化特論」</p> <p>(略)</p> <p>(追加)</p>

新	旧
<p><u>ナガレ歌、沖縄のミセセル、オタカベ、宮古のカンフツ、タービ、八重山のカンフツ、ニガイフツ等) および叙事・抒情文学、そして劇文学に焦点を当てて追究する。</u></p> <p><u>このように本科目は、研究琉球文学研究分野全体の理解を深化することを目的とし、いわゆる琉球文化圏で生まれ育まれた口承・筆録文芸作品群について研究する。</u></p> <p>③「南島民俗文化特論」 (略)</p> <p>④「中国琉球関係史特論」 (略)</p> <p>⑤「アメリカ環境文学特論」 (略)</p> <p>⑥「中南米地域文化特論」 (略)</p> <p>⑦「東アジア地域文化特論」 (略)</p> <p>⑧「東南アジア地域文化特論」 (略)</p> <p>⑨「言語学特論」 (略)</p> <p>⑩「英語教育特論」 (略)</p> <p>⑪「現代沖縄教育特論」 (略)</p> <p>⑫「アジア太平洋国際関係特論」 (略)</p> <p>以上、専門科目は<u>12</u>科目により編成する。</p>	<p>②「南島民俗文化特論」 (略)</p> <p>③「中国琉球関係史特論」 (略)</p> <p>④「アメリカ環境文学特論」 (略)</p> <p>⑤「中南米地域文化特論」 (略)</p> <p>⑥「東アジア地域文化特論」 (略)</p> <p>⑦「東南アジア地域文化特論」 (略)</p> <p>⑧「言語学特論」 (略)</p> <p>⑨「英語教育特論」 (略)</p> <p>⑩「現代沖縄教育特論」 (略)</p> <p>⑪「アジア太平洋国際関係特論」 (略)</p> <p>以上、専門科目は<u>11</u>科目により編成する。</p>

(新旧対照表) 各書類における授業科目 1 科目の追加及び教員 1 名の追加

新	旧
<p>基本計画書 (別記様式第 2 号(その 1 の 1)) 「教育課程」欄の「講義」科目数を「12 科目」に修正。「計」を「20 科目」に修正。</p> <p>「教員組織の概要」欄の「新設分」の「准教</p>	<p>基本計画書 (別記様式第 2 号(その 1 の 1)) (科目数追加)</p> <p>(教員数追加)</p>

新	旧
授」教員数を「2人(2)」に修正。「計」を「11人(11)」に修正。	
「専任教員研究室」欄の「室数」を「11室」に修正。	(室数追加)
教育課程等の概要 (別記様式第2号(その2の1))	教育課程等の概要 (別記様式第2号(その2の1))
「琉球文学特論」の追加	(追加)
授業科目の概要 (1ページ)	授業科目の概要
「琉球文学特論」の追加	(追加)
シラバス (7ページ)	シラバス
「琉球文学特論」の追加	(追加)
大学院学則 (案) (別表1) (18ページ)	大学院学則 (案) (別表1) (18ページ)
「琉球文学特論」の追加	(追加)
教員の氏名等 (別記様式第3号(その2の1))	教員の氏名等 (別記様式第3号(その2の1))
「新規① 照屋 理」の追加	(追加)
専任教員の年齢構成・学位保有状況 (別記様式第3号(その3))	専任教員の年齢構成・学位保有状況 (別記様式第3号(その3))
「40～49歳」「准教授・博士」の欄に1名追加し「2人」に修正	(追加)

2. 教員組織の将来構想 (「(図表) 教員組織の将来構想」参照)

本博士後期課程の開設時の教員組織は11名の構成とし、教育研究の継続性を維持するために、次のとおり若手教員の採用計画を立てている。

①本博士後期課程の専任教員11名中〈(図表)のNo1-11の教員〉、講義科目担当の6名〈(図表)のNo6-11の教員〉は、将来的に研究指導教員として配置する。

②本博士後期課程の基礎となる国際文化研究科 国際文化システム専攻(修士課程)の言語文化教育研究領域に所属する教員を、将来的に本博士後期課程の専任教員(兼務)として配置し、講義、研究指導を担当する。〈(図表)のNo12-15の教員〉

③定年を超える教員の専門分野の後任候補者が、現職教員にいない場合については、将来的に新規採用する。(図表)のNo16-17の教員)

将来的に本博士後期課程の専任教員として配置を予定している候補者については、アクティブな研究活動を継続し、現研究指導教員との共同研究を促進すること等を奨励する。

また、将来において専任教員として配置する際には、国際文化研究科国際地域文化専攻博士後期課程委員会に業績審査委員会を設置し、当該教員の適格性を厳正に審査する。審査にあたっては、大学院設置基準第9条規定の資格を有するかという観点を前提に、①職位、②保有学位、③刊行された学術書及び学術論文、④研究分野と担当科目の整合性、⑤学会活動等の基準により審査する。

このように本博士後期課程は、将来的にも継続性のある教育研究が展開できるように教員配置の適正化を図ることとしている。

(図表) 教員組織の将来構想 (講義及び研究指導 ●→、講義担当 ●●→)

No	開設時の 職位/氏名/開設時年齢/ 保有学位/研究分野等	年度									
		2019 (開設)	2020	2021 (完成)	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
1	教授/山里勝己/年齢/Doctor of Philosophy/ アメリカ文学	●→			※						
2	教授/住江淳司/年齢/博士(文学)/ 南北アメリカ史、 西洋史	●→			※						
3	教授/波照間永吉/年齢/博士(文学)/琉球文学、民俗文化	●→			※						
4	教授/山里純一/年齢/博士(歴史学)/民俗学、文化人類学	●→			※						
5	教授/赤嶺守/年齢/博士(文学)/ 中琉関係、アジア史	●→			※						
6	教授/中村浩一郎/年齢/文学修士/言語学	●●→			●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
7	教授/渡慶次正則/年齢/Doctor of Education/英語教育	●●→			●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
8	教授/嘉納英明/年齢/博士(教育学)/教育学、地域の教育	●●→			●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
9	教授/高嶺司/年齢/ Ph.D. in Asian Studies /国際関係、 政治学、アジア研究	●●→			●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
10	准教授/菅野敦志/年齢/博士(学術)/ 台湾・中国史、 東アジア地域研究	●●→			●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
11	准教授/照屋理/年齢/博士(芸術学)/琉球文学	●●→			●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
12	教授/A/50代/博士(文学)/日本中世文学				●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
13	准教授/B/40代/博士(文学)/日本文学・近現代文学				●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
14	准教授/C/30代/Ph. D. in American Literature/ アメリカ文学				●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
15	准教授/D/30代/博士(文学)/ 琉球・沖縄史、日本史				●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
16	教授か准教授/新規採用/40-50代/博士号/南北アメリ カ史、西洋史				●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
17	准教授/H30年10月採用予定/30-40代/博士号/東南 アジア研究				●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→

※ 定年を超える教員5名は、完成年度までは確実に在任し、それ以降も延長することが可能である。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(11 ページに項目追加。「(図表) 教員組織の将来構想」を設置の趣旨等を記載した書類では資料 4 と追加したうえ、以降の添付資料番号を繰り下げ)

新	旧
<p>4. 教員組織の将来構想 【資料 4…教員組織の将来構想】</p> <p><u>本博士後期課程の開設時の教員組織は 11 名の構成とし、教育研究の継続性を維持するために、次のとおり若手教員の採用計画を立てている。</u></p> <p><u>①本博士後期課程の専任教員 11 名中(資料 4 の No1-11 の教員)、講義科目担当の 6 名(資料 4 の No6-11 の教員)は、将来的に研究指導教員として配置する。</u></p> <p><u>②本博士後期課程の基礎となる国際文化研究科 国際文化システム専攻(修士課程)の言語文化教育研究領域に所属する教員を、将来的に本博士後期課程専任教員(兼務)として配置し、講義、研究指導を担当する。(資料 4 の No12-15 の教員)</u></p> <p><u>③定年を超える教員の専門分野の後任候補者が、現職教員にいない場合については、将来的に新規採用する。(資料 4 の No16-17 の教員)</u></p> <p><u>将来的に本博士後期課程の専任教員として配置を予定している候補者については、アクティブな研究活動を継続し、現研究指導教員との共同研究を促進すること等を奨励する。</u></p> <p><u>また、将来において専任教員として配置する際には、国際文化研究科国際地域文化専攻博士後期課程委員会に業績審査委員会を設置し、当該教員の適格性を厳正に審査する。審査にあたっては、大学院設置基準第 9 条規定の資格を有するかという観点を前提に、①職位、②保有学位、③刊行された学術書及び学術論文、④研究分野と担当科目の整合性、⑤学会活動等の基準により審査する。</u></p>	<p>(追加)</p>

新	旧
<p><u>このように本博士後期課程は、将来的にも継続性のある教育研究が展開できるように教員配置の適正化を図ることにしている。</u></p> <p>(設置の趣旨を記載した書類の添付資料追加及び番号の修正)</p> <p><u>資料 4 教員組織の将来構想</u></p> <p><u>資料 5 国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）履修モデル</u></p> <p><u>資料 6 研究指導スケジュール</u></p> <p><u>資料 7 名桜大学学位規則（案）</u></p> <p><u>資料 8 「公立学法人名桜大学における研究活動等の不正防止に関する規程」「名桜大学研究倫理に関する規則」「名桜大学全学研究倫理委員会 審査部会規程」</u></p> <p><u>資料 9 研究棟 1 階（大学院国際文化研究科施設）平面図</u> 名桜大学附属図書館 2 階第 2 研究棟平面図</p> <p><u>資料 10 大学院国際文化研究科 国際文化システム専攻（修士課程）と国際地域文化専攻（博士後期課程）の授業時間表（仮編成）</u></p> <p><u>資料 11 修士課程と博士後期課程の関係図</u></p> <p><u>資料 12 大学院設置基準第 14 条に基づく社会人を対象とした時間割（仮編成）</u></p> <p><u>資料 13 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻博士後期課程委員会規程（案）</u></p>	<p>(追加)</p> <p><u>資料 4 国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）履修モデル</u></p> <p><u>資料 5 研究指導スケジュール</u></p> <p><u>資料 6 名桜大学学位規則</u></p> <p><u>資料 7 「公立学法人名桜大学における研究活動等の不正防止に関する規程」「名桜大学研究倫理に関する規則」「名桜大学全学研究倫理委員会 審査部会規程」</u></p> <p><u>資料 8 研究棟 1 階（大学院国際文化研究科施設）平面図</u> 名桜大学附属図書館 2 階第 2 研究棟平面図</p> <p><u>資料 9 大学院国際文化研究科 国際文化システム専攻（修士課程）と国際地域文化専攻（博士後期課程）の授業時間表（仮編成）</u></p> <p><u>資料 10 修士課程と博士後期課程の関係図</u></p> <p><u>資料 11 大学院設置基準第 14 条に基づく社会人を対象とした時間割（仮編成）</u></p> <p><u>資料 12 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻博士後期課程委員会規程（案）</u></p>

(是正意見) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (D)

8. <表記の単純な誤記>

申請書に誤記等が散見されるため、適切に改めること。

(対応)

審査意見 8 を踏まえ、誤記等について下記の新旧対照表のとおり修正する。

(新旧対照表) 各書類

新	旧
<p>基本計画書 (p. 1) 新設学部等の概要の所在地の修正</p> <p>所在地 沖縄県名護市字 <u>為又</u> 1220 番地の 1</p>	<p>基本計画書 (p. 1)</p> <p>所在地 沖縄県名護市字 1220 番地の 1</p>
<p>授業科目の概要 (p. 1 : 国際地域文化総合演習 I)</p> <p>講義等の内容 本授業は、・・・理解を深めることを <u>目的とする</u>。同時に <u>博士後期課程</u>・・・支援する。</p>	<p>授業科目の概要 (p. 1 : 国際地域文化総合演習 I)</p> <p>講義等の内容 本授業は、・・・理解を深めることを <u>目的とする</u>と同時に <u>博士後期課程</u>・・・支援する。</p>
<p>シラバス (授業計画) (p. 1 : 国際地域文化総合演習 I)</p> <p>1. 授業の概要 本授業は、研究指導教員及び研究指導補助教員 <u>全員</u> が参加し、・・・理解を深めることを <u>目的とする</u>。同時に <u>博士後期課程</u>・・・支援する。</p>	<p>シラバス (授業計画) (p. 1 : 国際地域文化総合演習 I)</p> <p>1. 授業の概要 本授業は、研究指導教員及び研究指導補助教員が参加し、・・・理解を深めることを <u>目的と</u>同時に <u>博士後期課程</u>・・・支援する。</p>
<p>シラバス (授業計画) (p. 3 : 国際地域文化総合演習 II)</p> <p>1. 授業の概要 本授業は、国際地域文化総合演習 I と同様、研究指導教員及び <u>研究指導補助教員全員</u> が参加し、・・・支援する。</p>	<p>シラバス (授業計画) (p. 3 : 国際地域文化総合演習 II)</p> <p>1. 授業の概要 本授業は、国際地域文化総合演習 I と同様、研究指導教員及び <u>研究指導補助教員</u> が参加し、・・・支援する。</p>
<p>シラバス (授業計画) (p. 5 : 琉球・沖縄文化特論)</p>	<p>シラバス (授業計画) (p. 5 : 琉球・沖縄文化特論)</p>

新	旧
<p>科目名（英語）表記のスペルの修正 科目名（英語） Special Lectures on Ryukyuan and Okinawan Cultures</p>	<p>科目名（英語） Special lectures on Ryukyu and okinawa cultures</p>
<p>シラバス（授業計画） （p. 6：琉球・沖縄文化特論） 6. 成績評価の方法の文中内の見え消し線部分の削除 6. 成績評価の方法 講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。講義への取り組み（報告、討論等）など平常の受講態度についても評価する。</p>	<p>シラバス（授業計画） （p. 6：琉球・沖縄文化特論） 6. 成績評価の方法 講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。講義 への出席、および受講への取り組み（報告、討論等）など平常の受講態度についても評価する。</p>
<p>シラバス（授業計画） （p. 8：南島民俗文化特論） 科目名（英語）表記のスペルの修正 科目名（英語） Special Lectures on Ethnic Cultures of Southern Islands</p>	<p>シラバス（授業計画） （p. 7：南島民俗文化特論） 科目名（英語） Special lectures on ethnic cultures of south islands</p>
<p>シラバス（授業計画） （p. 9：中国琉球関係史特論） 科目名（英語）表記のスペルの修正 科目名（英語） Special Lectures on the History of Sino-Ryukyu Relations</p>	<p>シラバス（授業計画） （p. 8：中国琉球関係史特論） 科目名（英語）表記のスペルの修正 科目名（英語） The History of Sino-Ryukyu Relations</p>
<p>シラバス（授業計画） （p. 10：アメリカ環境文学特論） 科目名（英語）表記のスペルの修正 科目名（英語） Special Lectures on American Environmental</p>	<p>シラバス（授業計画） （p. 9：アメリカ環境文学特論） 科目名（英語）表記のスペルの修正 科目名（英語） American Environmental Literature</p>

新	旧
Literature	
シラバス (授業計画) (p. 11 : 中南米地域文化特論) 科目名 (英語) 表記のスペルの修正 科目名 (英語) <u>Special Lectures on Latin American Culture and Area Studies</u>	シラバス (授業計画) (p. 10 : 中南米地域文化特論) 科目名 (英語) Latin America Culture and Area Studies
シラバス (授業計画) (p. 12 : 東アジア地域文化特論) 科目名 (英語) 表記のスペルの修正 科目名 (英語) <u>Special Lectures on East Asian Culture and Area Studies</u>	シラバス (授業計画) (p. 11 : 東アジア地域文化特論) 科目名 (英語) East Asia Culture and Area Studies
シラバス (授業計画) (p. 13 : 東南アジア地域文化特論) ① 科目名 (英語) 表記のスペルの修正 ② 開講予定学期を休業期間の講義のため修正 ① 科目名 (英語) <u>Special Lectures on Southeast Asian Culture and Area Studies</u> ② 開講予定学期 <u>前期 (集中講義)</u>	シラバス (授業計画) (p. 12 : 東南アジア地域文化特論) ① 科目名 (英語) Southeast Asia Culture and Area Studies ② 開講予定学期 <u>後期</u>
シラバス (授業計画) (p. 14 : 言語学特論) ① 科目名 (英語) 表記のスペルの修正 ② 4. テキスト内のスペル修正 ① 科目名 (英語) <u>Special Lectures on Linguistics</u> ② 4. テキスト 主要参考文献: Fery, Caroline and Shinichiro	シラバス (授業計画) (p. 13 : 言語学特論) ① 科目名 (英語) <u>Special lectures on linguistics</u> ② 4. テキスト 主要参考文献: Fery, Caroline and Shinichiro

新	旧
Ishihara (2016) <i>The Oxford Handbook of Information Structure</i> , Oxford UP.	Ishihara (2016) <i>The Oxford handbook of Information Structure</i> , Oxford UP.
<p>シラバス (授業計画) (p. 16 : 英語教育特論) 科目名 (英語) 表記のスペルの修正</p> <p>科目名 (英語) <u>Special Lectures on English Education</u></p>	<p>シラバス (授業計画) (p. 15 : 英語教育特論) 科目名 (英語) 表記のスペルの修正</p> <p>科目名 (英語) English Education</p>
<p>シラバス (授業計画) (p. 17 : 現代沖縄教育特論) 科目名 (英語) 表記のスペルの修正</p> <p>科目名 (英語) <u>Special Lectures on Modern Okinawa</u> Education</p>	<p>シラバス (授業計画) (p. 16 : 現代沖縄教育特論)</p> <p>科目名 (英語) Modern Okinawa Education</p>
<p>シラバス (授業計画) (p. 18 : アジア太平洋国際関係特論) 科目名 (英語) 表記のスペルの修正</p> <p>科目名 (英語) <u>Special Lectures on International Relations of the Asia-Pacific</u></p>	<p>シラバス (授業計画) (p. 17 : アジア太平洋国際関係特論) 科目名 (英語) 表記のスペルの修正</p> <p>科目名 (英語) International Relations of the Asia-Pacific</p>
<p>シラバス (授業計画) (p. 44 : 特別演習 V) 科目名 (英語) の数字表記の修正</p> <p>科目名 (英語) Special Seminar <u>V</u></p>	<p>シラバス (授業計画) (p. 43 : 特別演習 V)</p> <p>科目名 (英語) Special Seminar <u>IV</u></p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 8 の 11~12 行目)</p> <p>中国との間で領土問題が絡み激しく対峙する尖閣列島領有権問題など、・・・</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 8 の 3~4 行目)</p> <p>中国との間で領土問題が絡み激しく対峙する尖閣列島領有権問題など、・・・</p>

新	旧
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 10 の 2 行目)</p> <p>「アジア太平洋国際関係特論」では、本博士 <u>後期</u> 課程が対象とする・・・</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 9 の 31 行目)</p> <p>「アジア太平洋国際関係特論」では、本博士課程が対象とする・・・</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 17 の 22 行目、33 行目、34 行目、35 行目)</p> <p>学位論文の審査については、「名桜大学学位規則 <u>(案)</u>」(資料 7) に則って行う。(中略)・・・学位論文の申請方法、申請書類、論文の審査、試験、審査期間、研究科委員会の審議及び審議結果の報告等については、「名桜大学学位規則 <u>(案)</u>」(資料 7) で定めている。</p> <p>合格した学位論文の公表については、「学位規則 (昭和二十八年四月一日 文部省令第九号)」の規定及び「名桜大学学位規則 <u>(案)</u>」により定められているとおり、(中略)・・・を要約したものを公表することができるものとする。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 15 の 20 行目、31 行目、32 行目、33 行目)</p> <p>学位論文の審査については、「名桜大学学位規則」(資料 6) に則って行う。(中略)・・・学位論文の申請方法、申請書類、論文の審査、試験、審査期間、研究科委員会の審議及び審議結果の報告等については、「名桜大学学位規則」(資料 6) で定めている。</p> <p>合格した学位論文の公表については、学位規則 (昭和二十八年四月一日 文部省令第九号) の規定及び名桜大学学位規則により定められているとおり、(中略)・・・を要約したものを公表することができるものとする。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 19 の 3 行目)</p> <p>本博士後期課程は、教育研究施設として、研究棟 1 階 (大学院専用施設) の講義室 2 室、<u>演習室 1 室</u> <u>及び環境系実験室 1 室</u> を修士課程と共用する。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 16 の 33 行目)</p> <p>本博士後期課程は、教育研究施設として、研究棟 1 階 (大学院専用施設) の講義室 2 室 <u>及び</u> 演習室 1 室を修士課程と共用する。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 19 の 14 行目)</p> <p>1. 講義室、演習室、研究室 講義室、演習室については、既設の研究棟 1 階の 2 室 (講義室 1 ; 60 m²、講義室 2 ; 62 m²)、演習室 1 室 (30 m²) 及び環境系実験室 <u>1 室</u> (32 m²) を修士課程と共用する。・・・</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 17 の 9 行目)</p> <p>1. 講義室、演習室、研究室 講義室、演習室については、既設の研究棟 1 階の 2 室 (講義室 1 ; 60 m²、講義室 2 ; 62 m²)、演習室 1 室 (30 m²) 及び環境系実験室 (32 m²) を修士課程と共用する。・・・</p>

新	旧
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 19 の 26 行目)</p> <p>本博士後期課程の教育・研究用機械、器具等の設備については、既存の設備等で十分対応できる。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 17 の 21 行目)</p> <p>当博士後期課程の教育・研究用機械、器具等の設備については、既存の設備等で十分対応できる。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 24 の 4 行目)</p> <p>夏季休業等にも授業又は研究指導を行うことができる教育環境を整備する。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 20 の 5 行目)</p> <p>夏季休暇等にも授業又は研究指導を行うことができる教育環境を整備する。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 24 の 19 行目)</p> <p>平日の夜間や週末及び夏季休業等にも授業又は研究指導を行うことを可能とする。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 20 の 20 行目)</p> <p>平日の夜間や週末及び夏季休暇等にも授業又は研究指導を行うことを可能とする。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 25 の 17 行目)</p> <p>6. 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の福利厚生に対する配慮、必要な職員の配置</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 21 の 15 行目)</p> <p>6. 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な職員の配置</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 25 の 25 行目)</p> <p>共同研究室にネットワーク環境が整備されたパソコンを一人一台装備し、・・・</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 21 の 23 行目)</p> <p>合同研究室にネットワーク環境が整備されたパソコンを一人一台装備し、・・・</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 26 の 38 行目)</p> <p>本学に蓄積された両地域におけるネットワークと研究を基盤としてこの分野の研究者を養成する。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 22 の 37 行目)</p> <p>本学に蓄積された両地域におけるネットワークと研究を活基盤としてこの分野の研究者を養成する。</p>

新	旧
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 27 の 3 行目)</p> <p>平日の夜間や週末及び夏季<u>休業</u>等にも授業又は研究指導を行うことができる教育環境を整備する。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 23 の 3 行目)</p> <p>平日の夜間や週末及び夏季<u>休暇</u>等にも授業又は研究指導を行うことができる教育環境を整備する。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 28 の 3 行目)</p> <p>「国際文化研究科国際地域文化専攻博士後期課程委員会規程 <u>(案)</u>」に則って行う。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 24 の 3 行目)</p> <p>「国際文化研究科国際地域文化専攻博士後期課程委員会規程」に則って行う。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 31 の 15 行目)</p> <p>⑥大学設置基準及び大学院設置基準の一部改正 (平成 29 年 4 月施行) による研修</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (p. 27 の 15 行目)</p> <p>⑤大学設置基準及び大学院設置基準の一部改正 (平成 29 年 4 月施行) による研修</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類に係る「資料 6」 (p. 2、p. 4)</p> <p>4 月 (学生、指導教員)、6 月 (学生) 内の「学位請求論文執筆作成計画書」の「作成」を削除。</p> <p>「学位請求論文執筆計画書」</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類に係る「資料 5」 (p. 2、p. 4)</p> <p>「学位請求論文執筆 <u>作成</u> 計画書」</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類に係る 「資料 12」(p. 1)</p> <p>※4. 博士後期課程の 1 年次配当科目である専門科目 (修了要件: 2 科目 4 単位以上、すべて前学期開講) は、2 科目 (社会人学生 1 名×2 科目) を開講すると仮定した。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類に係る 「資料 11」(p. 1)</p> <p>※4. 博士後期課程の 1 年次配当科目である専門科目 (修了要件: 2 科目 4 単位以上、すべて前学期開講) は、2 科目 (社会時学生 1 名×2 科目) を開講すると仮定した。</p>
<p>教員の氏名等 (別記様式第 3 号(その 2 の 1))</p> <p>3 専 教授 <u>(研究科長)</u> <small>ハ テルマ エイキチ</small> 波 照間 永吉</p>	<p>教員の氏名等 (別記様式第 3 号(その 2 の 1))</p> <p>3 専 教授 <small>ハ テルマ エイキチ</small> 波 照間 永吉</p>